

0001

2-1 病理学概論 > 病因・細胞障害・退行性変化 | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】外傷を契機として発症した疾患の分類として最も適切なのはどれか。

ア．出生後に外的要因などによって生じる疾患は後天性疾患に分類される。

イ．先天性疾患は出生時までに成立している疾患を指し、遺伝性・非遺伝性の双方を含む。

ウ．遺伝性疾患は遺伝情報の異常が発症に関与する疾患であり、外傷による発症とは異なる。

エ．特発性は原因を明確に特定できない疾患に用いられる。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「後天性疾患」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「先天性疾患」を検討するための内容であり、今回の正答「後天性疾患」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「遺伝性疾患」を検討するための内容であり、今回の正答「後天性疾患」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「特発性疾患」を検討するための内容であり、今回の正答「後天性疾患」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「後天性疾患」が正答である。判断根拠は、出生後に外的要因などによって生じる疾患は後天性疾患に分類される。出生後に外的要因などによって生じる疾患は後天性疾患に分類される。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0002

2-1 病理学概論 > 病因・細胞障害・退行性変化 | 難易度：基礎

「病因の内因と外因を区別する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

病因のうち物理的外因に分類されるのはどれか。

ア．染色体異常は内因に分類される。

イ．放射線は物理的因子として組織障害や発がんに関与し得る。

ウ．自己免疫異常は宿主要因であり内因に分類される。

エ．内分泌異常は内因として扱われる。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「染色体異常」を検討するための内容であり、今回の正答「放射線」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「放射線」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「自己免疫異常」を検討するための内容であり、今回の正答「放射線」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「甲状腺機能異常」を検討するための内容であり、今回の正答「放射線」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「放射線」が正答である。判断根拠は、放射線は物理的因子として組織障害や発がんに関与し得る。放射線は物理的因子として組織障害や発がんに関与し得る。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0003

2-1 病理学概論 > 病因・細胞障害・退行性変化 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
虚血による細胞傷害の初期に起こりやすい変化はどれか。

- ア．虚血ではATP産生は低下しやすく、増加するとはいえない。
- イ．虚血が進行すると膜機能は障害され、不可逆の傷害に進むことがある。
- ウ．虚血では酸素供給が不足し、酸化的リン酸化が障害されてATP産生が低下する。
- エ．酸素供給不足により好氣的代謝は低下する。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「細胞内ATPの増加」を検討するための内容であり、今回の正答「ATP産生の低下」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「細胞膜機能の永久的正常化」を検討するための内容であり、今回の正答「ATP産生の低下」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「ATP産生の低下」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「酸素消費量の必然的増加」を検討するための内容であり、今回の正答「ATP産生の低下」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「ATP産生の低下」が正答である。判断根拠は、虚血では酸素供給が不足し、酸化的リン酸化が障害されてATP産生が低下する。虚血では酸素供給が不足し、酸化的リン酸化が障害されてATP産生が低下する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0004

2-1 病理学概論 > 病因・細胞障害・退行性変化 | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】心筋梗塞で典型的にみられる壊死はどれか。

- ア．融解壊死は脳梗塞や膿瘍などで代表的にみられる。
- イ．乾酪壊死は結核などで代表的にみられる。
- ウ．脂肪壊死は急性膵炎や脂肪組織損傷などでみられる。
- エ．虚血による心筋梗塞では組織構築が一時的に保たれる凝固壊死が典型的である。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「融解壊死」を検討するための内容であり、今回の正答「凝固壊死」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「乾酪壊死」を検討するための内容であり、今回の正答「凝固壊死」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「脂肪壊死」を検討するための内容であり、今回の正答「凝固壊死」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「凝固壊死」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「凝固壊死」が正答である。判断根拠は、虚血による心筋梗塞では組織構築が一時的に保たれる凝固壊死が典型的である。虚血による心筋梗塞では組織構築が一時的に保たれる凝固壊死が典型的である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0005

2-1 病理学概論 > 病因・細胞障害・退行性変化 | 難易度：標準

「壊死の代表的形態を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なのはどれか。

脳の虚血病変で組織が軟化・液状化する際にみられる壊死形式はどれか。

ア．中枢神経組織の虚血性壊死では組織が軟化・液状化する融解壊死が典型的である。

イ．凝固壊死は心筋・腎など多くの実質臓器の虚血で典型的である。

ウ．乾酪壊死は結核性病変などでみられる。

エ．線維素様壊死は血管壁の免疫性障害などでみられる。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「融解壊死」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「凝固壊死」を検討するための内容であり、今回の正答「融解壊死」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「乾酪壊死」を検討するための内容であり、今回の正答「融解壊死」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「線維素様壊死」を検討するための内容であり、今回の正答「融解壊死」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「融解壊死」が正答である。判断根拠は、中枢神経組織の虚血性壊死では組織が軟化・液状化する融解壊死が典型的である。 中枢神経組織の虚血性壊死では組織が軟化・液状化する融解壊死が典型的である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0006

2-1 病理学概論 > 病因・細胞障害・退行性変化 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

アポトーシスの特徴として正しいのはどれか。

ア．この特徴は壊死でみられやすく、アポトーシスの典型ではない。

イ．アポトーシスは制御された細胞死で、細胞内容物の漏出が少なく強い炎症を起こしにくい。

ウ．アポトーシスは生理的にも病的にも起こる。

エ．組織の液状化は融解壊死の特徴である。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「細胞が破裂し周囲に強い炎症を起こすのが必須である」を検討するための内容であり、今回の正答「細胞が縮小し、通常は強い炎症反応を伴いにくい」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「細胞が縮小し、通常は強い炎症反応を伴いにくい」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「必ず感染によってのみ生じる」を検討するための内容であり、今回の正答「細胞が縮小し、通常は強い炎症反応を伴いにくい」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「組織全体が液状化する」を検討するための内容であり、今回の正答「細胞が縮小し、通常は強い炎症反応を伴いにくい」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「細胞が縮小し、通常は強い炎症反応を伴いにくい」が正答である。判断根拠は、アポトーシスは制御された細胞死で、細胞内容物の漏出が少なく強い炎症を起こしにくい。 アポトーシスは制御された細胞死で、細胞内容物の漏出が少なく強い炎症を起こしにくい。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0007

2-1 病理学概論 > 病因・細胞障害・退行性変化 | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】生理的に細胞分裂を繰り返し、再生能力が高い組織はどれか。

ア．成人の心筋細胞は再生能が非常に低い。

イ．成熟した中枢神経ニューロンの再生能は極めて限られる。

ウ．腸管上皮は幹細胞から継続的に更新されるため再生能が高い。

エ．水晶体線維を再生能の高い代表組織とはしない。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「心筋」を検討するための内容であり、今回の正答「腸管上皮」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「中枢神経のニューロン」を検討するための内容であり、今回の正答「腸管上皮」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「腸管上皮」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「水晶体線維」を検討するための内容であり、今回の正答「腸管上皮」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「腸管上皮」が正答である。判断根拠は、腸管上皮は幹細胞から継続的に更新されるため再生能が高い。腸管上皮は幹細胞から継続的に更新されるため再生能が高い。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0008

2-1 病理学概論 > 病因・細胞障害・退行性変化 | 難易度：応用

「創傷治癒の一次治癒と二次治癒を区別する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

組織欠損が大きく創縁を直接合わせられない創傷で起こりやすい治癒はどれか。

ア．第一次治癒は創縁が近接し組織欠損が小さい清潔な切創などでみられる。

イ．大きな組織欠損では瘢痕形成を伴うことが多く、完全再生だけとは限らない。

ウ．石灰化は通常の創傷治癒様式ではない。

エ．組織欠損が大きい創傷では肉芽組織形成と創収縮を伴う第二次治癒となりやすい。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「第一次治癒」を検討するための内容であり、今回の正答「第二次治癒」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「完全再生のみ」を検討するための内容であり、今回の正答「第二次治癒」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「石灰化による治癒」を検討するための内容であり、今回の正答「第二次治癒」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「第二次治癒」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「第二次治癒」が正答である。判断根拠は、組織欠損が大きい創傷では肉芽組織形成と創収縮を伴う第二次治癒となりやすい。組織欠損が大きい創傷では肉芽組織形成と創収縮を伴う第二次治癒となりやすい。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0009 2-1 病理学概論 > 病因・細胞障害・退行性変化 | 難易度：基礎

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
肥大の定義として正しいのはどれか。

- ア．肥大は主として細胞数ではなく細胞サイズの増加による。
- イ．細胞数の増加は過形成である。
- ウ．これは化生である。
- エ．これは萎縮の主要な変化である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「個々の細胞の容積が増大して臓器・組織が大きくなること」が正答となる根拠を直接示している。
イ：誤り。この説明は「細胞数が増加すること」を検討するための内容であり、今回の正答「個々の細胞の容積が増大して臓器・組織が大きくなること」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：誤り。この説明は「成熟細胞が別の成熟細胞型に置換されること」を検討するための内容であり、今回の正答「個々の細胞の容積が増大して臓器・組織が大きくなること」を支持する中心的根拠ではない。
エ：誤り。この説明は「臓器の細胞が縮小すること」を検討するための内容であり、今回の正答「個々の細胞の容積が増大して臓器・組織が大きくなること」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「個々の細胞の容積が増大して臓器・組織が大きくなること」が正答である。判断根拠は、肥大は主として細胞数ではなく細胞サイズの増加による。 肥大は主として細胞数ではなく細胞サイズの増加による。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0010 2-1 病理学概論 > 病因・細胞障害・退行性変化 | 難易度：応用

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】化生の説明として正しいのはどれか。

- ア．これは腫瘍性増殖の説明である。
- イ．化生は持続刺激に対する適応として、分化した細胞型が別の成熟細胞型へ置換される現象である。
- ウ．これは充血に関係する変化である。
- エ．これは壊死でみられる変化である。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「細胞が無秩序に悪性増殖すること」を検討するための内容であり、今回の正答「ある成熟細胞型が別の成熟細胞型に置き換わる適応性変化」を支持する中心的根拠ではない。
イ：正しい。この説明は「ある成熟細胞型が別の成熟細胞型に置き換わる適応性変化」が正答となる根拠を直接示している。
ウ：誤り。この説明は「組織の血流が急激に増えること」を検討するための内容であり、今回の正答「ある成熟細胞型が別の成熟細胞型に置き換わる適応性変化」を支持する中心的根拠ではない。
エ：誤り。この説明は「細胞が壊れて内容物が漏出すること」を検討するための内容であり、今回の正答「ある成熟細胞型が別の成熟細胞型に置き換わる適応性変化」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「ある成熟細胞型が別の成熟細胞型に置き換わる適応性変化」が正答である。判断根拠は、化生は持続刺激に対する適応として、分化した細胞型が別の成熟細胞型へ置換される現象である。 化生は持続刺激に対する適応として、分化した細胞型が別の成熟細胞型へ置換される現象である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0011

2-1 病理学概論 > 循環障害・炎症・修復 | 難易度：基礎

「充血とうっ血を区別する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

充血の説明として正しいのはどれか。

ア．これはうっ血の説明である。

イ．これは血栓形成である。

ウ．充血は細動脈拡張などにより能動的に血流入が増える状態である。

エ．浮腫とは逆方向の変化であり、充血の定義ではない。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「静脈流出障害による受動的な血液貯留」を検討するための内容であり、今回の正答「動脈血流入の増加による局所血液量の増加」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「血管内で血液が凝固すること」を検討するための内容であり、今回の正答「動脈血流入の増加による局所血液量の増加」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「動脈血流入の増加による局所血液量の増加」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「組織液が減少すること」を検討するための内容であり、今回の正答「動脈血流入の増加による局所血液量の増加」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「動脈血流入の増加による局所血液量の増加」が正答である。判断根拠は、充血は細動脈拡張などにより能動的に血流入が増える状態である。充血は細動脈拡張などにより能動的に血流入が増える状態である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0012

2-1 病理学概論 > 循環障害・炎症・修復 | 難易度：基礎

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

右心不全で全身性うっ血が生じる主な機序はどれか。

ア．これは充血の機序に近く、全身性静脈うっ血の説明ではない。

イ．右心不全のうっ血を血漿タンパク増加だけで説明できない。

ウ．リンパ球減少はうっ血の直接機序ではない。

エ．右心系の拍出不全では体静脈圧が上昇し、静脈血がうっ滞しやすい。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「末梢動脈が拡張して動脈血流入だけが増える」を検討するための内容であり、今回の正答「静脈還流側の圧上昇により静脈血がうっ滞する」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「血漿タンパクが必ず増加する」を検討するための内容であり、今回の正答「静脈還流側の圧上昇により静脈血がうっ滞する」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「リンパ球が減少して起こる」を検討するための内容であり、今回の正答「静脈還流側の圧上昇により静脈血がうっ滞する」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「静脈還流側の圧上昇により静脈血がうっ滞する」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「静脈還流側の圧上昇により静脈血がうっ滞する」が正答である。判断根拠は、右心系の拍出不全では体静脈圧が上昇し、静脈血がうっ滞しやすい。右心系の拍出不全では体静脈圧が上昇し、静脈血がうっ滞しやすい。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0013

2-1 病理学概論 > 循環障害・炎症・修復 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】低アルブミン血症で浮腫が生じやすくなる主な理由はどれか。

ア．アルブミン低下は血管内へ水分を保持する膠質浸透圧を低下させ、間質への水分移動を促す。

イ．静水圧低下は一般に濾過を減らす方向である。

ウ．リンパ流増加は間質液回収を促し、浮腫を軽減する方向に働く。

エ．赤血球数増加は低アルブミンによる浮腫の主機序ではない。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「血漿膠質浸透圧が低下するため」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「毛細血管静水圧が必ず低下するため」を検討するための内容であり、今回の正答「血漿膠質浸透圧が低下するため」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「リンパ流が必ず増加するため」を検討するための内容であり、今回の正答「血漿膠質浸透圧が低下するため」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「赤血球数が増加するため」を検討するための内容であり、今回の正答「血漿膠質浸透圧が低下するため」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「血漿膠質浸透圧が低下するため」が正答である。判断根拠は、アルブミン低下は血管内へ水分を保持する膠質浸透圧を低下させ、間質への水分移動を促す。アルブミン低下は血管内へ水分を保持する膠質浸透圧を低下させ、間質への水分移動を促す。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0014

2-1 病理学概論 > 循環障害・炎症・修復 | 難易度：標準

「血栓形成の主要因を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

血栓形成を促進する三要因に含まれないのはどれか。

ア．内皮障害は血栓形成の主要因である。

イ．Virchowの三徴は血管内皮障害、血流異常、血液凝固能亢進である。

ウ．血流異常は血栓形成の主要因である。

エ．凝固能亢進は血栓形成の主要因である。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「血管内皮障害」を検討するための内容であり、今回の正答「血漿アルブミン濃度の上昇」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「血漿アルブミン濃度の上昇」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「血流の停滞や乱流」を検討するための内容であり、今回の正答「血漿アルブミン濃度の上昇」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「血液凝固能の亢進」を検討するための内容であり、今回の正答「血漿アルブミン濃度の上昇」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「血漿アルブミン濃度の上昇」が正答である。判断根拠は、Virchowの三徴は血管内皮障害、血流異常、血液凝固能亢進である。Virchowの三徴は血管内皮障害、血流異常、血液凝固能亢進である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0015

2-1 病理学概論 > 循環障害・炎症・修復 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
塞栓の説明として最も適切なのはどれか。

- ア．血管壁炎症は塞栓の定義ではない。
- イ．これは充血の説明である。
- ウ．血栓片などの塞栓子が血流で移動し、別部位の血管を閉塞する状態を塞栓という。
- エ．塞栓の概念とは無関係である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「血管壁が炎症だけで肥厚すること」を検討するための内容であり、今回の正答「血流に運ばれた物質が遠隔部の血管を閉塞すること」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「局所の動脈血流入が増加すること」を検討するための内容であり、今回の正答「血流に運ばれた物質が遠隔部の血管を閉塞すること」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「血流に運ばれた物質が遠隔部の血管を閉塞すること」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「組織液が血管内に完全に戻ることを検討するための内容であり、今回の正答「血流に運ばれた物質が遠隔部の血管を閉塞すること」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「血流に運ばれた物質が遠隔部の血管を閉塞すること」が正答である。判断根拠は、血栓片などの塞栓子が血流で移動し、別部位の血管を閉塞する状態を塞栓という。血栓片などの塞栓子が血流で移動し、別部位の血管を閉塞する状態を塞栓という。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0016

2-1 病理学概論 > 循環障害・炎症・修復 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】梗塞の説明として正しいのはどれか。

- ア．感染は梗塞の必須条件ではない。
- イ．これは梗塞の定義ではない。
- ウ．これは過形成である。
- エ．梗塞は動脈閉塞などにより血流が途絶え、組織が虚血性壊死に陥る病変である。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「細菌感染による化膿性炎症のみを指す」を検討するための内容であり、今回の正答「血流遮断による虚血性組織壊死」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「静脈血流量が増加する生理現象」を検討するための内容であり、今回の正答「血流遮断による虚血性組織壊死」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「細胞数が増加する適応変化」を検討するための内容であり、今回の正答「血流遮断による虚血性組織壊死」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「血流遮断による虚血性組織壊死」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「血流遮断による虚血性組織壊死」が正答である。判断根拠は、梗塞は動脈閉塞などにより血流が途絶え、組織が虚血性壊死に陥る病変である。梗塞は動脈閉塞などにより血流が途絶え、組織が虚血性壊死に陥る病変である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0017

2-1 病理学概論 > 循環障害・炎症・修復 | 難易度：標準

「ショックの病態を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

ショックに共通する病態として最も適切なものはどれか。

ア．ショックは原因が異なっても、循環不全による組織低灌流が中心病態となる。

イ．ショックでは有効循環血液量や心拍出の不足などにより灌流が低下する。

ウ．ショックでは低血圧を伴うことが多く、高血圧のみとはいえない。

エ．ショックは全身性循環不全であり筋肥大の病態ではない。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「全身の組織灌流が不足し細胞への酸素供給が障害される」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「全身の組織灌流が一律に増加する」を検討するための内容であり、今回の正答「全身の組織灌流が不足し細胞への酸素供給が障害される」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「必ず高血圧だけを呈する」を検討するための内容であり、今回の正答「全身の組織灌流が不足し細胞への酸素供給が障害される」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「局所の筋肥大だけが起こる」を検討するための内容であり、今回の正答「全身の組織灌流が不足し細胞への酸素供給が障害される」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「全身の組織灌流が不足し細胞への酸素供給が障害される」が正答である。判断根拠は、ショックは原因が異なっても、循環不全による組織低灌流が中心病態となる。ショックは原因が異なっても、循環不全による組織低灌流が中心病態となる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0018

2-1 病理学概論 > 循環障害・炎症・修復 | 難易度：基礎

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

急性細菌性炎症の初期に優位となりやすい細胞はどれか。

ア．形質細胞は抗体産生に関与し、慢性炎症などでみられる。

イ．好中球は急性炎症初期に速やかに遊走し、細菌などを貪食する。

ウ．線維芽細胞は修復・線維化に重要だが急性炎症初期の主役ではない。

エ．骨芽細胞は骨形成を担う。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「形質細胞」を検討するための内容であり、今回の正答「好中球」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「好中球」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「線維芽細胞」を検討するための内容であり、今回の正答「好中球」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「骨芽細胞」を検討するための内容であり、今回の正答「好中球」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「好中球」が正答である。判断根拠は、好中球は急性炎症初期に速やかに遊走し、細菌などを貪食する。好中球は急性炎症初期に速やかに遊走し、細菌などを貪食する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0019

2-1 病理学概論 > 循環障害・炎症・修復 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】急性炎症で血管透過性亢進に關与する代表的メディエーターはどれか。

ア．インスリンは主に血糖調節に關与する。

イ．エリスロポエチンは赤血球産生を促進する。

ウ．ヒスタミンは細静脈の血管透過性亢進や血管拡張に關与する。

エ．甲状腺刺激ホルモンは甲状腺機能を調節する。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「インスリン」を検討するための内容であり、今回の正答「ヒスタミン」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「エリスロポエチン」を検討するための内容であり、今回の正答「ヒスタミン」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「ヒスタミン」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「甲状腺刺激ホルモン」を検討するための内容であり、今回の正答「ヒスタミン」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「ヒスタミン」が正答である。判断根拠は、ヒスタミンは細静脈の血管透過性亢進や血管拡張に關与する。ヒスタミンは細静脈の血管透過性亢進や血管拡張に關与する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0020

2-1 病理学概論 > 循環障害・炎症・修復 | 難易度：応用

「慢性炎症の特徴を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

慢性炎症でみられやすい組織反応はどれか。

ア．好中球優位は急性炎症で典型的で、慢性炎症では単核球が重要である。

イ．慢性炎症でも炎症細胞浸潤はみられる。

ウ．慢性炎症では血管新生や線維化など複数の反応が起こる。

エ．慢性炎症では単核球浸潤、組織破壊、修復・線維化が並行してみられやすい。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「好中球だけが短時間に集積して完全に消失する」を検討するための内容であり、今回の正答「マクロファージやリンパ球の浸潤と線維化」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「炎症細胞が全く存在しない」を検討するための内容であり、今回の正答「マクロファージやリンパ球の浸潤と線維化」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「血管反応がなく再生のみが起こる」を検討するための内容であり、今回の正答「マクロファージやリンパ球の浸潤と線維化」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「マクロファージやリンパ球の浸潤と線維化」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「マクロファージやリンパ球の浸潤と線維化」が正答である。判断根拠は、慢性炎症では単核球浸潤、組織破壊、修復・線維化が並行してみられやすい。慢性炎症では単核球浸潤、組織破壊、修復・線維化が並行してみられやすい。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0021

2-1 病理学概論 > 循環障害・炎症・修復 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
創傷治癒過程の肉芽組織に豊富なのはどれか。

- ア．肉芽組織は血管新生と線維芽細胞増殖を特徴とし、修復・瘢痕形成の基盤となる。
- イ．肉芽組織の主構成ではない。
- ウ．肉芽組織は壊死物質だけで構成されない。
- エ．肉芽組織の主要構成は新生血管と線維芽細胞である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「新生毛細血管と線維芽細胞」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「成熟した軟骨細胞だけ」を検討するための内容であり、今回の正答「新生毛細血管と線維芽細胞」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「壊死した赤血球だけ」を検討するための内容であり、今回の正答「新生毛細血管と線維芽細胞」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「角化した上皮細胞だけ」を検討するための内容であり、今回の正答「新生毛細血管と線維芽細胞」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「新生毛細血管と線維芽細胞」が正答である。判断根拠は、肉芽組織は血管新生と線維芽細胞増殖を特徴とし、修復・瘢痕形成の基盤となる。肉芽組織は血管新生と線維芽細胞増殖を特徴とし、修復・瘢痕形成の基盤となる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0022

2-1 病理学概論 > 免疫異常・腫瘍 | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】自然免疫の特徴として正しいのはどれか。

- ア．高度な特異性と免疫記憶は獲得免疫の代表的特徴である。
- イ．自然免疫は病原体に対する第一線の防御として迅速に作動する。
- ウ．自然免疫には好中球・マクロファージ・補体などが関与する。
- エ．自然免疫は生来備わる防御機構である。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「抗原ごとに高度な免疫記憶を形成することが本質である」を検討するための内容であり、今回の正答「感染初期から比較的速やかに働く」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「感染初期から比較的速やかに働く」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「B細胞が産生する抗体だけで構成される」を検討するための内容であり、今回の正答「感染初期から比較的速やかに働く」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「出生後の予防接種でのみ成立する」を検討するための内容であり、今回の正答「感染初期から比較的速やかに働く」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「感染初期から比較的速やかに働く」が正答である。判断根拠は、自然免疫は病原体に対する第一線の防御として迅速に作動する。自然免疫は病原体に対する第一線の防御として迅速に作動する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0023

2-1 病理学概論 > 免疫異常・腫瘍 | 難易度：基礎

「液性免疫の担い手を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なのはどれか。

抗体を大量に産生する細胞はどれか。

ア．好中球は主に貪食を担う。

イ．血小板は一次止血に重要である。

ウ．活性化B細胞が分化した形質細胞が免疫グロブリンを産生する。

エ．線維芽細胞は細胞外基質産生と修復に関与する。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「好中球」を検討するための内容であり、今回の正答「形質細胞」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「血小板」を検討するための内容であり、今回の正答「形質細胞」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「形質細胞」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「線維芽細胞」を検討するための内容であり、今回の正答「形質細胞」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「形質細胞」が正答である。判断根拠は、活性化B細胞が分化した形質細胞が免疫グロブリンを産生する。 活性化B細胞が分化した形質細胞が免疫グロブリンを産生する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0024

2-1 病理学概論 > 免疫異常・腫瘍 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

型アレルギー反応に最も関係する組合せはどれか。

ア．赤血球産生は 型アレルギーの機序ではない。

イ．T細胞主体の遅延型反応は 型アレルギーに典型的である。

ウ．止血系のみで 型アレルギーを説明できない。

エ． 型反応では抗原特異的IgEが肥満細胞表面に結合し、再曝露で脱顆粒が起こる。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「IgGと赤血球の生理的産生」を検討するための内容であり、今回の正答「IgEと肥満細胞」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「T細胞のみと遅延型反応」を検討するための内容であり、今回の正答「IgEと肥満細胞」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「血小板と凝固因子のみ」を検討するための内容であり、今回の正答「IgEと肥満細胞」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「IgEと肥満細胞」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「IgEと肥満細胞」が正答である。判断根拠は、 型反応では抗原特異的IgEが肥満細胞表面に結合し、再曝露で脱顆粒が起こる。 型反応では抗原特異的IgEが肥満細胞表面に結合し、再曝露で脱顆粒が起こる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0025

2-1 病理学概論 > 免疫異常・腫瘍 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】 型アレルギー反応の中心となるのはどれか。

ア． 型は抗体ではなく感作T細胞を主体とする遅延型過敏反応である。

イ．これは 型アレルギーの代表的機序である。

ウ．免疫複合体は 型アレルギーに重要である。

エ．補体欠損は免疫不全の原因となり得るが 型の中心機序ではない。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「感作T細胞」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「IgEを介する肥満細胞脱顆粒」を検討するための内容であり、今回の正答「感作T細胞」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「免疫複合体の沈着のみ」を検討するための内容であり、今回の正答「感作T細胞」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「補体欠損だけ」を検討するための内容であり、今回の正答「感作T細胞」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「感作T細胞」が正答である。判断根拠は、 型は抗体ではなく感作T細胞を主体とする遅延型過敏反応である。 型は抗体ではなく感作T細胞を主体とする遅延型過敏反応である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0026

2-1 病理学概論 > 免疫異常・腫瘍 | 難易度：標準

「自己免疫疾患の基本機序を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

自己免疫疾患の成立に最も直接関係するのはどれか。

ア．リンパ球消失は免疫不全につながり、自己免疫の基本機序とは異なる。

イ．自己成分に反応しない仕組みである免疫寛容が破綻すると自己免疫反応が起こり得る。

ウ．自己免疫の成立機序ではない。

エ．自己免疫寛容とは異なる現象である。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「全てのリンパ球の消失」を検討するための内容であり、今回の正答「自己免疫寛容の破綻」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「自己免疫寛容の破綻」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「赤血球の酸素運搬能の増加」を検討するための内容であり、今回の正答「自己免疫寛容の破綻」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「血小板凝集の生理的抑制」を検討するための内容であり、今回の正答「自己免疫寛容の破綻」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「自己免疫寛容の破綻」が正答である。判断根拠は、自己成分に反応しない仕組みである免疫寛容が破綻すると自己免疫反応が起こり得る。自己成分に反応しない仕組みである免疫寛容が破綻すると自己免疫反応が起こり得る。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0027

2-1 病理学概論 > 免疫異常・腫瘍 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
HIV感染により進行性にCD4陽性T細胞が減少する病態はどれか。

- ア．関節リウマチは慢性自己免疫性炎症性疾患である。
- イ．変形性関節症は関節軟骨変性を基盤とする。
- ウ．AIDSはHIV感染による後天性免疫不全で、細胞性免疫障害により日和見感染などが生じやすくなる。
- エ．鉄欠乏性貧血は免疫不全症候群ではない。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「関節リウマチ」を検討するための内容であり、今回の正答「後天性免疫不全症候群（AIDS）」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「変形性関節症」を検討するための内容であり、今回の正答「後天性免疫不全症候群（AIDS）」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：正しい。この説明は「後天性免疫不全症候群（AIDS）」が正答となる根拠を直接示している。
エ：誤り。この説明は「鉄欠乏性貧血」を検討するための内容であり、今回の正答「後天性免疫不全症候群（AIDS）」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「後天性免疫不全症候群（AIDS）」が正答である。判断根拠は、AIDSはHIV感染による後天性免疫不全で、細胞性免疫障害により日和見感染などが生じやすくなる。AIDSはHIV感染による後天性免疫不全で、細胞性免疫障害により日和見感染などが生じやすくなる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0028

2-1 病理学概論 > 免疫異常・腫瘍 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】悪性腫瘍により特徴的なのはどれか。

- ア．良性腫瘍は境界明瞭で膨張性発育を示すことが多い。
- イ．転移は悪性腫瘍の重要な性質である。
- ウ．悪性腫瘍では一般に異型がみられる。
- エ．悪性腫瘍は浸潤性増殖や転移能を示すことが重要な特徴である。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「被膜内での膨張性発育のみ」を検討するための内容であり、今回の正答「周囲組織への浸潤と転移」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「転移を全く起こさない」を検討するための内容であり、今回の正答「周囲組織への浸潤と転移」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：誤り。この説明は「細胞異型が必ず存在しない」を検討するための内容であり、今回の正答「周囲組織への浸潤と転移」を支持する中心的根拠ではない。
エ：正しい。この説明は「周囲組織への浸潤と転移」が正答となる根拠を直接示している。
総合解説：元の論点では「周囲組織への浸潤と転移」が正答である。判断根拠は、悪性腫瘍は浸潤性増殖や転移能を示すことが重要な特徴である。悪性腫瘍は浸潤性増殖や転移能を示すことが重要な特徴である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0029

2-1 病理学概論 > 免疫異常・腫瘍 | 難易度：応用

「腫瘍の転移経路を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

癌腫で比較的典型的な転移経路はどれか。

- ア．上皮性悪性腫瘍である癌腫はリンパ行性転移を示すことが多い。
- イ．神経周囲浸潤はあり得るが、一般的な転移経路の分類ではない。
- ウ．転移経路として用いる分類ではない。
- エ．汗腺分泌は腫瘍転移の経路ではない。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「リンパ行性転移」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「神経伝導路を通る転移」を検討するための内容であり、今回の正答「リンパ行性転移」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「骨格筋収縮による直接転移」を検討するための内容であり、今回の正答「リンパ行性転移」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「汗腺分泌による転移」を検討するための内容であり、今回の正答「リンパ行性転移」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「リンパ行性転移」が正答である。判断根拠は、上皮性悪性腫瘍である癌腫はリンパ行性転移を示すことが多い。上皮性悪性腫瘍である癌腫はリンパ行性転移を示すことが多い。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0030

2-1 病理学概論 > 免疫異常・腫瘍 | 難易度：応用

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
TNM分類でMが表すのはどれか。

- ア．これはTが表す。
- イ．TNMではTが原発腫瘍、Nが所属リンパ節、Mが遠隔転移を表す。
- ウ．これはNが表す。
- エ．TNMのMは腫瘍マーカーではない。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「原発腫瘍の大きさ・進展」を検討するための内容であり、今回の正答「遠隔転移」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「遠隔転移」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「所属リンパ節転移」を検討するための内容であり、今回の正答「遠隔転移」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「腫瘍マーカー値」を検討するための内容であり、今回の正答「遠隔転移」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「遠隔転移」が正答である。判断根拠は、TNMではTが原発腫瘍、Nが所属リンパ節、Mが遠隔転移を表す。TNMではTが原発腫瘍、Nが所属リンパ節、Mが遠隔転移を表す。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0031

2-2 臨床医学総論 > 医療面接・診察・バイタルサイン | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】医療面接で最初に把握すべき患者の訴えとして最も基本的なのはどれか。

ア．診断名は面接・診察・検査を統合して判断するもので、最初から確定しているとは限らない。

イ．画像結果は面接そのものではなく検査情報である。

ウ．主訴は患者が最も困っている症状や受診理由であり、病歴聴取の出発点となる。

エ．受診時の面接でまず把握する事項ではない。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「最終診断名」を検討するための内容であり、今回の正答「主訴」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「画像診断結果」を検討するための内容であり、今回の正答「主訴」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「主訴」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「治療後の転帰」を検討するための内容であり、今回の正答「主訴」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「主訴」が正答である。判断根拠は、主訴は患者が最も困っている症状や受診理由であり、病歴聴取の出発点となる。主訴は患者が最も困っている症状や受診理由であり、病歴聴取の出発点となる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0032

2-2 臨床医学総論 > 医療面接・診察・バイタルサイン | 難易度：基礎

「自覚症状と他覚所見を区別する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

自覚症状に該当するのはどれか。

ア．検者が観察・確認した所見は他覚所見である。

イ．測定値は客観的な他覚所見である。

ウ．検査所見は客観的な情報である。

エ．自覚症状は患者本人が感じて表現する症状である。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「検者が確認した関節腫脹」を検討するための内容であり、今回の正答「患者が訴える「腰が痛い」という感覚」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「測定した体温38.5」を検討するための内容であり、今回の正答「患者が訴える「腰が痛い」という感覚」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「検査で確認した貧血所見」を検討するための内容であり、今回の正答「患者が訴える「腰が痛い」という感覚」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「患者が訴える「腰が痛い」という感覚」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「患者が訴える「腰が痛い」という感覚」が正答である。判断根拠は、自覚症状は患者本人が感じて表現する症状である。自覚症状は患者本人が感じて表現する症状である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0033

2-2 臨床医学総論 > 医療面接・診察・バイタルサイン | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
POMRの特徴として正しいのはどれか。

- ア．POMRはProblem-Oriented Medical Recordで、問題リストを軸に診療情報を整理する。
- イ．POMRは検査値のみを記録する方式ではない。
- ウ．問題指向型では主観・客観情報や評価・計画を整理する。
- エ．診療記録として必要な情報を適切に記録する。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「患者の問題を明確化し、問題ごとに情報と計画を整理する」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「検査値だけを時系列に並べる」を検討するための内容であり、今回の正答「患者の問題を明確化し、問題ごとに情報と計画を整理する」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「主訴を記録せず治療内容だけを書く」を検討するための内容であり、今回の正答「患者の問題を明確化し、問題ごとに情報と計画を整理する」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「個人情報を一切記録しない」を検討するための内容であり、今回の正答「患者の問題を明確化し、問題ごとに情報と計画を整理する」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「患者の問題を明確化し、問題ごとに情報と計画を整理する」が正答である。判断根拠は、POMRはProblem-Oriented Medical Recordで、問題リストを軸に診療情報を整理する。POMRはProblem-Oriented Medical Recordで、問題リストを軸に診療情報を整理する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0034

2-2 臨床医学総論 > 医療面接・診察・バイタルサイン | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】視診で評価する項目として最も適切なのはどれか。

- ア．深部腱反射は反射検査で評価する。
- イ．歩行、姿勢、顔色、皮膚などは視診で観察できる。
- ウ．肝酵素値は血液生化学検査で評価する。
- エ．尿タンパクは尿検査で評価する。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「深部腱反射」を検討するための内容であり、今回の正答「歩行の様子」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「歩行の様子」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「肝酵素値」を検討するための内容であり、今回の正答「歩行の様子」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「尿タンパク」を検討するための内容であり、今回の正答「歩行の様子」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「歩行の様子」が正答である。判断根拠は、歩行、姿勢、顔色、皮膚などは視診で観察できる。歩行、姿勢、顔色、皮膚などは視診で観察できる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0035

2-2 臨床医学総論 > 医療面接・診察・バイタルサイン | 難易度：標準

「打診音の基本を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なのはどれか。

正常な含気肺を打診したときに基本となる音はどれか。

ア．濁音は実質臓器や肺の含気減少などでみられやすい。

イ．鼓音は胃泡など空気を多く含む腔でみられやすい。

ウ．含気のある正常肺野では一般に清音が得られる。

エ．打診は組織の性状に応じた音を評価する診察法である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「濁音」を検討するための内容であり、今回の正答「清音」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「鼓音」を検討するための内容であり、今回の正答「清音」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「清音」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「完全な無音」を検討するための内容であり、今回の正答「清音」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「清音」が正答である。判断根拠は、含気のある正常肺野では一般に清音が得られる。含気のある正常肺野では一般に清音が得られる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0036

2-2 臨床医学総論 > 医療面接・診察・バイタルサイン | 難易度：基礎

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

聴診で直接評価するのに適しているのはどれか。

ア．関節可動域は視診や角度計測などで評価する。

イ．皮膚温は主に触診などで確認する。

ウ．尿糖は尿検査で評価する。

エ．呼吸音、心音、腸雑音、血管雑音などは聴診で評価する。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「関節可動域」を検討するための内容であり、今回の正答「呼吸音」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「皮膚温のみ」を検討するための内容であり、今回の正答「呼吸音」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「尿糖」を検討するための内容であり、今回の正答「呼吸音」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「呼吸音」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「呼吸音」が正答である。判断根拠は、呼吸音、心音、腸雑音、血管雑音などは聴診で評価する。呼吸音、心音、腸雑音、血管雑音などは聴診で評価する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0037

2-2 臨床医学総論 > 医療面接・診察・バイタルサイン | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】触診で評価しやすいのはどれか。

- ア．表在リンパ節は大きさ、圧痛、硬さ、可動性などを触診で評価できる。
- イ．HbA1cは血液検査で測定する。
- ウ．脳波は電気生理学的検査である。
- エ．肺活量は呼吸機能検査で測定する。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「表在リンパ節の腫大」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「血中HbA1c」を検討するための内容であり、今回の正答「表在リンパ節の腫大」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「脳波」を検討するための内容であり、今回の正答「表在リンパ節の腫大」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「肺活量」を検討するための内容であり、今回の正答「表在リンパ節の腫大」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「表在リンパ節の腫大」が正答である。判断根拠は、表在リンパ節は大きさ、圧痛、硬さ、可動性などを触診で評価できる。表在リンパ節は大きさ、圧痛、硬さ、可動性などを触診で評価できる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0038

2-2 臨床医学総論 > 医療面接・診察・バイタルサイン | 難易度：応用

「血圧測定の基本を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

上腕で血圧を測定するときの基本として適切なものはどれか。

- ア．会話は血圧に影響し得るため、安静に測定する。
- イ．上腕の位置が心臓より大きく上下すると静水圧の影響で測定値に誤差が生じる。
- ウ．原則として適切なサイズのカフを上腕に正しく装着する。
- エ．通常の安静時血圧評価では一定時間安静後の測定が望ましい。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「測定中に会話を続ける」を検討するための内容であり、今回の正答「測定する上腕を心臓の高さ付近に保つ」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「測定する上腕を心臓の高さ付近に保つ」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「カフを衣服の厚い部分の上から強く巻く」を検討するための内容であり、今回の正答「測定する上腕を心臓の高さ付近に保つ」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「運動直後に必ず測定する」を検討するための内容であり、今回の正答「測定する上腕を心臓の高さ付近に保つ」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「測定する上腕を心臓の高さ付近に保つ」が正答である。判断根拠は、上腕の位置が心臓より大きく上下すると静水圧の影響で測定値に誤差が生じる。上腕の位置が心臓より大きく上下すると静水圧の影響で測定値に誤差が生じる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0039

2-2 臨床医学総論 > 医療面接・診察・バイタルサイン | 難易度：基礎

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
成人の脈拍を日常的に触知しやすい部位はどれか。

- ア．肺動脈は体表から触知できない。
- イ．門脈は体表で脈拍測定に用いない。
- ウ．橈骨動脈は手関節橈側で触知しやすく、脈拍測定に広く用いられる。
- エ．冠状動脈は心表面を走行し体表から触知できない。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「肺動脈」を検討するための内容であり、今回の正答「橈骨動脈」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「門脈」を検討するための内容であり、今回の正答「橈骨動脈」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「橈骨動脈」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「冠状動脈」を検討するための内容であり、今回の正答「橈骨動脈」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「橈骨動脈」が正答である。判断根拠は、橈骨動脈は手関節橈側で触知しやすく、脈拍測定に広く用いられる。 橈骨動脈は手関節橈側で触知しやすく、脈拍測定に広く用いられる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0040

2-2 臨床医学総論 > 医療面接・診察・バイタルサイン | 難易度：応用

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】2026年版出題基準の「バイタルサイン（生命徴候）」に明示されている項目はどれか。

- ア．尿酸は生化学検査項目であり、バイタルサインとして列挙されていない。
- イ．関節可動域は運動機能・リハビリテーション領域の評価である。
- ウ．フェリチンは鉄代謝関連の検査項目である。
- エ．出題基準では脈拍、呼吸、体温、血圧、意識レベルがバイタルサインとして列挙されている。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「血清尿酸値」を検討するための内容であり、今回の正答「意識レベル」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「関節可動域」を検討するための内容であり、今回の正答「意識レベル」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「血清フェリチン」を検討するための内容であり、今回の正答「意識レベル」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「意識レベル」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「意識レベル」が正答である。判断根拠は、出題基準では脈拍、呼吸、体温、血圧、意識レベルがバイタルサインとして列挙されている。 出題基準では脈拍、呼吸、体温、血圧、意識レベルがバイタルサインとして列挙されている。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0041

2-2 臨床医学総論 > 神経・運動機能検査 | 難易度：基礎

「感覚検査の分類を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

表在感覚に含まれるのはどれか。

ア．痛覚・温度覚・触覚は表在感覚に含まれる。

イ．位置覚は深部感覚に分類される。

ウ．振動覚は深部感覚として評価される。

エ．二点識別覚は複合感覚・皮質性感覚として評価される。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「痛覚」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「位置覚」を検討するための内容であり、今回の正答「痛覚」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「振動覚」を検討するための内容であり、今回の正答「痛覚」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「二点識別覚」を検討するための内容であり、今回の正答「痛覚」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「痛覚」が正答である。判断根拠は、痛覚・温度覚・触覚は表在感覚に含まれる。痛覚・温度覚・触覚は表在感覚に含まれる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0042

2-2 臨床医学総論 > 神経・運動機能検査 | 難易度：基礎

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

深部感覚に含まれるのはどれか。

ア．温度覚は表在感覚である。

イ．関節位置覚は筋・腱・関節などからの固有感覚に関係する深部感覚である。

ウ．痛覚は表在感覚である。

エ．嗅覚は特殊感覚である。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「温度覚」を検討するための内容であり、今回の正答「関節位置覚」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「関節位置覚」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「痛覚」を検討するための内容であり、今回の正答「関節位置覚」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「嗅覚」を検討するための内容であり、今回の正答「関節位置覚」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「関節位置覚」が正答である。判断根拠は、関節位置覚は筋・腱・関節などからの固有感覚に関係する深部感覚である。関節位置覚は筋・腱・関節などからの固有感覚に関係する深部感覚である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0043 2-2 臨床医学総論 > 神経・運動機能検査 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】成人でBabinski反射が陽性の場合に示唆されるのはどれか。

- ア．Babinski反射は末梢感覚神経単独障害の代表所見ではない。
- イ．小脳機能正常を示す検査ではない。
- ウ．成人のBabinski反射陽性は上位運動ニューロン・錐体路障害を示唆する。
- エ．Babinski反射は聴覚評価と無関係である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「末梢感覚神経だけの障害」を検討するための内容であり、今回の正答「錐体路障害」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「正常な小脳機能」を検討するための内容であり、今回の正答「錐体路障害」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：正しい。この説明は「錐体路障害」が正答となる根拠を直接示している。
エ：誤り。この説明は「聴覚障害」を検討するための内容であり、今回の正答「錐体路障害」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「錐体路障害」が正答である。判断根拠は、成人のBabinski反射陽性は上位運動ニューロン・錐体路障害を示唆する。 成人のBabinski反射陽性は上位運動ニューロン・錐体路障害を示唆する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0044 2-2 臨床医学総論 > 神経・運動機能検査 | 難易度：標準

「腱反射と上位運動ニューロン障害の関係を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。
上位運動ニューロン障害でみられやすい所見はどれか。
ア．反射消失は末梢神経・下位運動ニューロン障害などでみられやすい。
イ．上位運動ニューロン障害では痙性など筋緊張亢進が典型的である。
ウ．上位運動ニューロン障害は運動徴候を呈する。
エ．錐体路障害では抑制系の障害により深部腱反射が亢進しやすい。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「深部腱反射の一律な消失」を検討するための内容であり、今回の正答「深部腱反射の亢進」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「筋緊張の低下だけ」を検討するための内容であり、今回の正答「深部腱反射の亢進」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：誤り。この説明は「感覚障害のみで運動所見がない」を検討するための内容であり、今回の正答「深部腱反射の亢進」を支持する中心的根拠ではない。
エ：正しい。この説明は「深部腱反射の亢進」が正答となる根拠を直接示している。
総合解説：元の論点では「深部腱反射の亢進」が正答である。判断根拠は、錐体路障害では抑制系の障害により深部腱反射が亢進しやすい。 錐体路障害では抑制系の障害により深部腱反射が亢進しやすい。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0045

2-2 臨床医学総論 > 神経・運動機能検査 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
徒手筋力検査（MMT）で「重力に抗して全可動域を動かせるが、外からの抵抗には耐えられない」場合の段階はどれか。

- ア．MMT3は重力に抗して全可動域の運動が可能な状態である。
- イ．MMT0は筋収縮を認めない。
- ウ．MMT1は筋収縮を触知できるが関節運動は起こせない。
- エ．MMT5は正常筋力として強い抵抗に抗して運動できる。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「3（Fair）」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「0（Zero）」を検討するための内容であり、今回の正答「3（Fair）」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「1（Trace）」を検討するための内容であり、今回の正答「3（Fair）」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「5（Normal）」を検討するための内容であり、今回の正答「3（Fair）」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「3（Fair）」が正答である。判断根拠は、MMT3は重力に抗して全可動域の運動が可能な状態である。MMT3は重力に抗して全可動域の運動が可能な状態である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0046

2-2 臨床医学総論 > 神経・運動機能検査 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】指鼻試験で主に評価する機能はどれか。

- ア．視力検査そのものではない。
- イ．指鼻試験は測定障害など小脳性運動失調の評価に用いられる。
- ウ．聴覚機能検査ではない。
- エ．心肺持久力の直接評価ではない。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「視力」を検討するための内容であり、今回の正答「小脳性協調運動」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「小脳性協調運動」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「聴力」を検討するための内容であり、今回の正答「小脳性協調運動」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「心肺持久力」を検討するための内容であり、今回の正答「小脳性協調運動」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「小脳性協調運動」が正答である。判断根拠は、指鼻試験は測定障害など小脳性運動失調の評価に用いられる。指鼻試験は測定障害など小脳性運動失調の評価に用いられる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0047

2-2 臨床医学総論 > 神経・運動機能検査 | 難易度：応用

「Romberg試験の意味を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なのはどれか。

開眼では立位保持できるが閉眼すると著しく動揺する場合、障害が疑われる機能はどれか。

ア．小脳失調では開眼時から立位が不安定なことが多く、閉眼でのみ著明悪化する所見とは異なる。

イ．Romberg試験は肝機能検査ではない。

ウ．視覚補正を除くと立位が悪化するRomberg陽性は、深部感覚系や前庭系障害を示唆する。

エ．腎機能を評価する検査ではない。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「純粋な小脳失調だけ」を検討するための内容であり、今回の正答「深部感覚または前庭機能」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「肝機能」を検討するための内容であり、今回の正答「深部感覚または前庭機能」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「深部感覚または前庭機能」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「腎濾過機能」を検討するための内容であり、今回の正答「深部感覚または前庭機能」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「深部感覚または前庭機能」が正答である。判断根拠は、視覚補正を除くと立位が悪化するRomberg陽性は、深部感覚系や前庭系障害を示唆する。視覚補正を除くと立位が悪化するRomberg陽性は、深部感覚系や前庭系障害を示唆する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0048

2-2 臨床医学総論 > 神経・運動機能検査 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

下肢伸展挙上（SLR）テストが陽性となりやすいのはどれか。

ア．手根管症候群は正中神経の絞扼で、SLRの対象ではない。

イ．肩関節疾患の評価にSLRは用いない。

ウ．顎関節の評価とは無関係である。

エ．SLRは坐骨神経を介して腰仙部神経根を伸張し、神経根刺激症状の誘発に用いられる。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「手根管症候群」を検討するための内容であり、今回の正答「腰椎椎間板ヘルニアによる腰仙部神経根刺激」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「肩関節周囲炎」を検討するための内容であり、今回の正答「腰椎椎間板ヘルニアによる腰仙部神経根刺激」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「顎関節症」を検討するための内容であり、今回の正答「腰椎椎間板ヘルニアによる腰仙部神経根刺激」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「腰椎椎間板ヘルニアによる腰仙部神経根刺激」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「腰椎椎間板ヘルニアによる腰仙部神経根刺激」が正答である。判断根拠は、SLRは坐骨神経を介して腰仙部神経根を伸張し、神経根刺激症状の誘発に用いられる。SLRは坐骨神経を介して腰仙部神経根を伸張し、神経根刺激症状の誘発に用いられる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0049

2-2 臨床医学総論 > 神経・運動機能検査 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】Spurlingテストが主に評価するのはどれか。

- ア．頸部を伸展・側屈し軸圧を加えて上肢放散痛を誘発することで頸椎神経根刺激を評価する。
- イ．膝半月板には別の整形外科的検査を用いる。
- ウ．アキレス腱断裂の評価にはThompsonテストなどがある。
- エ．Spurlingテストは頸部の神経根評価である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「頸椎神経根症」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「膝半月板損傷」を検討するための内容であり、今回の正答「頸椎神経根症」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「アキレス腱断裂」を検討するための内容であり、今回の正答「頸椎神経根症」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「股関節形成不全」を検討するための内容であり、今回の正答「頸椎神経根症」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「頸椎神経根症」が正答である。判断根拠は、頸部を伸展・側屈し軸圧を加えて上肢放散痛を誘発することで頸椎神経根刺激を評価する。頸部を伸展・側屈し軸圧を加えて上肢放散痛を誘発することで頸椎神経根刺激を評価する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0050

2-2 臨床医学総論 > 神経・運動機能検査 | 難易度：応用

「正中神経絞扼の誘発検査を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

手関節を屈曲位に保持して正中神経領域のしびれを誘発する検査はどれか。

- ア．Thomasテストは股関節屈曲拘縮などの評価に用いる。
- イ．Phalenテストは手根管内圧を高め、手根管症候群の症状を誘発する検査である。
- ウ．Trendelenburg徴候は股関節外転筋機能などを評価する。
- エ．Lachmanテストは膝前十字靱帯損傷の評価に用いる。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「Thomasテスト」を検討するための内容であり、今回の正答「Phalenテスト」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「Phalenテスト」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「Trendelenburgテスト」を検討するための内容であり、今回の正答「Phalenテスト」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「Lachmanテスト」を検討するための内容であり、今回の正答「Phalenテスト」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「Phalenテスト」が正答である。判断根拠は、Phalenテストは手根管内圧を高め、手根管症候群の症状を誘発する検査である。Phalenテストは手根管内圧を高め、手根管症候群の症状を誘発する検査である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0051

2-2 臨床医学総論 > 臨床検査・主要症候・救急 | 難易度：基礎

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
尿タンパク陽性が持続する場合に障害を疑う臓器として最も関連が深いのはどれか。

- ア．甲状腺疾患の主要スクリーニング所見ではない。
- イ．中耳疾患と蛋白尿は直接対応しない。
- ウ．持続性蛋白尿は糸球体障害など腎疾患を示唆し、腎機能評価が必要となる。
- エ．水晶体疾患を尿タンパクで評価しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「甲状腺」を検討するための内容であり、今回の正答「腎臓」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「中耳」を検討するための内容であり、今回の正答「腎臓」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：正しい。この説明は「腎臓」が正答となる根拠を直接示している。
エ：誤り。この説明は「水晶体」を検討するための内容であり、今回の正答「腎臓」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「腎臓」が正答である。判断根拠は、持続性蛋白尿は糸球体障害など腎疾患を示唆し、腎機能評価が必要となる。持続性蛋白尿は糸球体障害など腎疾患を示唆し、腎機能評価が必要となる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0052

2-2 臨床医学総論 > 臨床検査・主要症候・救急 | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】HbA1cが主に反映するのはどれか。

- ア．HbA1cは血圧指標ではない。
- イ．炎症評価にはCRPなどを用いる。
- ウ．腎機能評価の中心指標ではない。
- エ．HbA1cは赤血球中ヘモグロビンの糖化を利用し、直近数か月の平均的血糖状態を評価する。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「その瞬間の血圧だけ」を検討するための内容であり、今回の正答「一定期間の平均的な血糖状態」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「急性炎症の程度だけ」を検討するための内容であり、今回の正答「一定期間の平均的な血糖状態」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：誤り。この説明は「腎臓の濾過量だけ」を検討するための内容であり、今回の正答「一定期間の平均的な血糖状態」を支持する中心的根拠ではない。
エ：正しい。この説明は「一定期間の平均的な血糖状態」が正答となる根拠を直接示している。
総合解説：元の論点では「一定期間の平均的な血糖状態」が正答である。判断根拠は、HbA1cは赤血球中ヘモグロビンの糖化を利用し、直近数か月の平均的血糖状態を評価する。HbA1cは赤血球中ヘモグロビンの糖化を利用し、直近数か月の平均的血糖状態を評価する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0053

2-2 臨床医学総論 > 臨床検査・主要症候・救急 | 難易度：基礎

「腎機能検査の基本を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なのはどれか。

腎機能評価に用いられる血液検査項目はどれか。

ア．血清クレアチニンは糸球体濾過機能を推定する際の基本的指標である。

イ．ALTは主に肝細胞障害の評価に用いられる。

ウ．アミラーゼは膵疾患などで評価される。

エ．CEAは腫瘍マーカーの一つである。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「クレアチニン」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「ALT」を検討するための内容であり、今回の正答「クレアチニン」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「アミラーゼ」を検討するための内容であり、今回の正答「クレアチニン」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「CEA」を検討するための内容であり、今回の正答「クレアチニン」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「クレアチニン」が正答である。判断根拠は、血清クレアチニンは糸球体濾過機能を推定する際の基本的指標である。血清クレアチニンは糸球体濾過機能を推定する際の基本的指標である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0054

2-2 臨床医学総論 > 臨床検査・主要症候・救急 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

肝細胞障害の評価に用いられる代表的な酵素はどれか。

ア．PSAは前立腺関連の腫瘍マーカーとして用いられる。

イ．AST・ALTは肝細胞傷害の評価に広く用いられる。

ウ．HbA1cは血糖管理の指標である。

エ．クレアチニンは腎機能評価に用いられる。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「PSA」を検討するための内容であり、今回の正答「AST・ALT」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「AST・ALT」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「HbA1c」を検討するための内容であり、今回の正答「AST・ALT」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「クレアチニン」を検討するための内容であり、今回の正答「AST・ALT」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「AST・ALT」が正答である。判断根拠は、AST・ALTは肝細胞傷害の評価に広く用いられる。AST・ALTは肝細胞傷害の評価に広く用いられる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0055

2-2 臨床医学総論 > 臨床検査・主要症候・救急 | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】炎症の程度を反映する血液検査として代表的なのはどれか。

ア．PSAは前立腺疾患の評価に用いられる。

イ．HbA1cは平均血糖の指標である。

ウ．CRPは炎症刺激で肝臓から産生が増える急性期反応タンパクである。

エ．HDLは脂質代謝の評価項目である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「PSA」を検討するための内容であり、今回の正答「CRP」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「HbA1c」を検討するための内容であり、今回の正答「CRP」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「CRP」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「HDLコレステロール」を検討するための内容であり、今回の正答「CRP」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「CRP」が正答である。判断根拠は、CRPは炎症刺激で肝臓から産生が増える急性期反応タンパクである。CRPは炎症刺激で肝臓から産生が増える急性期反応タンパクである。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0056

2-2 臨床医学総論 > 臨床検査・主要症候・救急 | 難易度：標準

「心電図の目的を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

心電図で直接記録するのはどれか。

ア．心電図は血液成分を直接測定しない。

イ．肺胞気的气体分析そのものではない。

ウ．骨密度評価にはDXAなどが用いられる。

エ．心電図は体表電極で心筋興奮に伴う電位変化を記録し、不整脈などを評価する。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「冠動脈内の血液成分」を検討するための内容であり、今回の正答「心臓の電気活動」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「肺胞の酸素分圧」を検討するための内容であり、今回の正答「心臓の電気活動」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「骨密度」を検討するための内容であり、今回の正答「心臓の電気活動」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「心臓の電気活動」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「心臓の電気活動」が正答である。判断根拠は、心電図は体表電極で心筋興奮に伴う電位変化を記録し、不整脈などを評価する。心電図は体表電極で心筋興奮に伴う電位変化を記録し、不整脈などを評価する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0057

2-2 臨床医学総論 > 臨床検査・主要症候・救急 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
急性の頭部外傷で頭蓋内出血を迅速に評価するとき、一般に第一選択となりやすい画像検査はどれか。

ア．CTは短時間で施行でき、急性頭蓋内出血の検出に優れるため救急で広く用いられる。
イ．骨粗鬆症評価には有用だが急性頭蓋内出血の評価ではない。
ウ．皮膚表面温度分布の評価であり頭蓋内出血の第一選択ではない。
エ．視力検査だけでは頭蓋内出血を診断できない。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「頭部CT」が正答となる根拠を直接示している。
イ：誤り。この説明は「骨密度測定」を検討するための内容であり、今回の正答「頭部CT」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：誤り。この説明は「サーモグラフィ」を検討するための内容であり、今回の正答「頭部CT」を支持する中心的根拠ではない。
エ：誤り。この説明は「単純な視力検査」を検討するための内容であり、今回の正答「頭部CT」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「頭部CT」が正答である。判断根拠は、CTは短時間で施行でき、急性頭蓋内出血の検出に優れるため救急で広く用いられる。CTは短時間で施行でき、急性頭蓋内出血の検出に優れるため救急で広く用いられる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0058

2-2 臨床医学総論 > 臨床検査・主要症候・救急 | 難易度：応用

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】脊髄や椎間板など軟部組織の詳細な評価に適しているのはどれか。

ア．聴診では脊髄や椎間板を画像化できない。
イ．MRIは軟部組織コントラストに優れ、脊髄・神経・椎間板などの評価に有用である。
ウ．尿路疾患評価に用いる検査である。
エ．消化管出血のスクリーニングなどに用いる。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「単純腹部聴診」を検討するための内容であり、今回の正答「MRI」を支持する中心的根拠ではない。
イ：正しい。この説明は「MRI」が正答となる根拠を直接示している。
ウ：誤り。この説明は「尿沈渣」を検討するための内容であり、今回の正答「MRI」を支持する中心的根拠ではない。
エ：誤り。この説明は「便潜血検査」を検討するための内容であり、今回の正答「MRI」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「MRI」が正答である。判断根拠は、MRIは軟部組織コントラストに優れ、脊髄・神経・椎間板などの評価に有用である。MRIは軟部組織コントラストに優れ、脊髄・神経・椎間板などの評価に有用である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0059

2-2 臨床医学総論 > 臨床検査・主要症候・救急 | 難易度：応用

「一次救命処置におけるAEDの役割を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なのはどれか。

反応がなく正常な呼吸がない成人に対する一次救命処置で、AEDについて正しいのはどれか。

ア．AEDは一般市民も使用でき、到着後速やかな使用が重要である。

イ．AEDは心停止が疑われる状況で使用し、機器の解析に従う。

ウ．AEDは心停止時の救命処置で重要で、機器が心電図を解析し電気ショック適応を判断する。

エ．救助要請・AED手配とともに胸骨圧迫を開始することが重要である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「医療資格者が到着するまで絶対に使用しない」を検討するための内容であり、今回の正答「到着したら速やかに装着し、音声指示に従って使用する」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「意識のある人に予防的に電気ショックを行う」を検討するための内容であり、今回の正答「到着したら速やかに装着し、音声指示に従って使用する」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「到着したら速やかに装着し、音声指示に従って使用する」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「胸骨圧迫を行わずAEDだけを待つ」を検討するための内容であり、今回の正答「到着したら速やかに装着し、音声指示に従って使用する」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「到着したら速やかに装着し、音声指示に従って使用する」が正答である。判断根拠は、AEDは心停止時の救命処置で重要で、機器が心電図を解析し電気ショック適応を判断する。AEDは心停止時の救命処置で重要で、機器が心電図を解析し電気ショック適応を判断する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0060

2-2 臨床医学総論 > 臨床検査・主要症候・救急 | 難易度：応用

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

施術前、患者に突然の片麻痺と言葉の出にくさが出現した。最も適切な対応はどれか。

ア．脳卒中が疑われる状況で施術継続は適切でない。

イ．緊急評価が必要であり翌日まで待つべきではない。

ウ．神経学的緊急事態を除外せず施術を続けるのは危険である。

エ．突然の局所神経症状は脳卒中を疑う緊急所見であり、治療開始までの時間が重要である。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「症状部位を強く揉んで経過を見る」を検討するための内容であり、今回の正答「脳卒中を疑い、施術を中止して直ちに救急要請する」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「翌日まで自宅で安静にしてもらう」を検討するための内容であり、今回の正答「脳卒中を疑い、施術を中止して直ちに救急要請する」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「水分補給だけで施術を続ける」を検討するための内容であり、今回の正答「脳卒中を疑い、施術を中止して直ちに救急要請する」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「脳卒中を疑い、施術を中止して直ちに救急要請する」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「脳卒中を疑い、施術を中止して直ちに救急要請する」が正答である。判断根拠は、突然の局所神経症状は脳卒中を疑う緊急所見であり、治療開始までの時間が重要である。突然の局所神経症状は脳卒中を疑う緊急所見であり、治療開始までの時間が重要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0061

2-3 運動器・神経系疾患 > 運動器疾患 | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】中高年で徐々に肩痛が出現し、特に外旋を含む自動・他動の関節可動域がともに制限されている。最も考えやすいのはどれか。

ア．凍結肩では疼痛と肩関節包の拘縮により自動・他動可動域が制限され、外旋制限が目立ちやすい。

イ．手根管症候群は正中神経障害による手指しびれなどが主体である。

ウ．主症状は下肢の神経症状や神経性間欠跛行である。

エ．顔面の発作性疼痛を呈する神経痛である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「肩関節周囲炎（凍結肩）」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「手根管症候群」を検討するための内容であり、今回の正答「肩関節周囲炎（凍結肩）」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「腰部脊柱管狭窄症」を検討するための内容であり、今回の正答「肩関節周囲炎（凍結肩）」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「三叉神経痛」を検討するための内容であり、今回の正答「肩関節周囲炎（凍結肩）」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「肩関節周囲炎（凍結肩）」が正答である。判断根拠は、凍結肩では疼痛と肩関節包の拘縮により自動・他動可動域が制限され、外旋制限が目立ちやすい。凍結肩では疼痛と肩関節包の拘縮により自動・他動可動域が制限され、外旋制限が目立ちやすい。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0062

2-3 運動器・神経系疾患 > 運動器疾患 | 難易度：標準

「変形性膝関節症の特徴を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

高齢者の膝痛で、荷重時に痛みが増え、画像で関節裂隙狭小化と骨棘形成を認める。最も考えやすいのはどれか。

ア．腹部疾患であり膝画像所見とは一致しない。

イ．変形性関節症では関節軟骨変性に伴い関節裂隙狭小化や骨棘形成がみられる。

ウ．末梢性顔面神経麻痺である。

エ．頭痛疾患で膝関節の変性所見を説明しない。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「急性虫垂炎」を検討するための内容であり、今回の正答「変形性膝関節症」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「変形性膝関節症」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「Bell麻痺」を検討するための内容であり、今回の正答「変形性膝関節症」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「緊張型頭痛」を検討するための内容であり、今回の正答「変形性膝関節症」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「変形性膝関節症」が正答である。判断根拠は、変形性関節症では関節軟骨変性に伴い関節裂隙狭小化や骨棘形成がみられる。変形性関節症では関節軟骨変性に伴い関節裂隙狭小化や骨棘形成がみられる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0063

2-3 運動器・神経系疾患 > 運動器疾患 | 難易度：基礎

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
痛風関節炎の原因となる結晶はどれか。

- ア．これは偽痛風（CPP結晶沈着症）に関係する。
- イ．痛風の主要原因結晶ではない。
- ウ．高尿酸血症を背景に尿酸一ナトリウム結晶が関節内へ沈着し急性炎症を起こす。
- エ．尿路結石などに関与するが痛風関節炎の原因ではない。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「ピロリン酸カルシウム結晶」を検討するための内容であり、今回の正答「尿酸一ナトリウム結晶」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「コレステロール結晶だけ」を検討するための内容であり、今回の正答「尿酸一ナトリウム結晶」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：正しい。この説明は「尿酸一ナトリウム結晶」が正答となる根拠を直接示している。
エ：誤り。この説明は「シュウ酸カルシウム結晶」を検討するための内容であり、今回の正答「尿酸一ナトリウム結晶」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「尿酸一ナトリウム結晶」が正答である。判断根拠は、高尿酸血症を背景に尿酸一ナトリウム結晶が関節内へ沈着し急性炎症を起こす。高尿酸血症を背景に尿酸一ナトリウム結晶が関節内へ沈着し急性炎症を起こす。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0064

2-3 運動器・神経系疾患 > 運動器疾患 | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】偽痛風で関節内に沈着する代表的な結晶はどれか。

- ア．尿酸一ナトリウムは痛風に関係する。
- イ．鉄由来色素であり偽痛風の原因結晶ではない。
- ウ．偽痛風の原因はCPP結晶である。
- エ．偽痛風はCPP結晶沈着による急性関節炎で、膝などに生じやすい。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「尿酸一ナトリウム結晶」を検討するための内容であり、今回の正答「ピロリン酸カルシウム結晶」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「ヘモジデリン」を検討するための内容であり、今回の正答「ピロリン酸カルシウム結晶」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：誤り。この説明は「アミロイドのみ」を検討するための内容であり、今回の正答「ピロリン酸カルシウム結晶」を支持する中心的根拠ではない。
エ：正しい。この説明は「ピロリン酸カルシウム結晶」が正答となる根拠を直接示している。
総合解説：元の論点では「ピロリン酸カルシウム結晶」が正答である。判断根拠は、偽痛風はCPP結晶沈着による急性関節炎で、膝などに生じやすい。偽痛風はCPP結晶沈着による急性関節炎で、膝などに生じやすい。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0065

2-3 運動器・神経系疾患 > 運動器疾患 | 難易度：標準

「Perthes病の特徴を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なのはどれか。

小児にみられる大腿骨頭の無腐性壊死として代表的なのはどれか。

ア．Perthes病は小児期に発症する大腿骨頭骨端の虚血性壊死である。

イ．骨量低下を特徴とし、小児の大腿骨頭壊死の名称ではない。

ウ．中高年の肩関節疾患である。

エ．尺骨神経絞扼性障害である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「Perthes病」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「骨粗鬆症」を検討するための内容であり、今回の正答「Perthes病」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「肩関節周囲炎」を検討するための内容であり、今回の正答「Perthes病」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「肘部管症候群」を検討するための内容であり、今回の正答「Perthes病」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「Perthes病」が正答である。判断根拠は、Perthes病は小児期に発症する大腿骨頭骨端の虚血性壊死である。Perthes病は小児期に発症する大腿骨頭骨端の虚血性壊死である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0066

2-3 運動器・神経系疾患 > 運動器疾患 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
非外傷性大腿骨頭壊死の危険因子として重要なのはどれか。

ア．一般的な危険因子ではない。

イ．ステロイド大量使用や多量飲酒は非外傷性大腿骨頭壊死の代表的危険因子である。

ウ．大腿骨頭壊死の代表的危険因子ではない。

エ．発症リスクとの直接的関連はない。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「短時間の軽い散歩」を検討するための内容であり、今回の正答「大量の副腎皮質ステロイド使用」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「大量の副腎皮質ステロイド使用」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「通常量の水分摂取」を検討するための内容であり、今回の正答「大量の副腎皮質ステロイド使用」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「日常的な読書」を検討するための内容であり、今回の正答「大量の副腎皮質ステロイド使用」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「大量の副腎皮質ステロイド使用」が正答である。判断根拠は、ステロイド大量使用や多量飲酒は非外傷性大腿骨頭壊死の代表的危険因子である。ステロイド大量使用や多量飲酒は非外傷性大腿骨頭壊死の代表的危険因子である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0067

2-3 運動器・神経系疾患 > 運動器疾患 | 難易度：応用

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】骨肉腫について正しいのはどれか。

ア．好発年齢・部位として不適切である。

イ．骨肉腫は悪性骨腫瘍で肺転移などを起こし得る。

ウ．骨肉腫は若年者に多く、膝周囲など長管骨の骨幹端に好発する。

エ．骨肉腫は骨形成性悪性腫瘍である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「高齢者の手指末節骨にのみ発生する」を検討するための内容であり、今回の正答「思春期前後の長管骨骨幹端に好発する」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「良性腫瘍で転移しない」を検討するための内容であり、今回の正答「思春期前後の長管骨骨幹端に好発する」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「思春期前後の長管骨骨幹端に好発する」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「神経鞘から発生する」を検討するための内容であり、今回の正答「思春期前後の長管骨骨幹端に好発する」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「思春期前後の長管骨骨幹端に好発する」が正答である。判断根拠は、骨肉腫は若年者に多く、膝周囲など長管骨の骨幹端に好発する。骨肉腫は若年者に多く、膝周囲など長管骨の骨幹端に好発する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0068

2-3 運動器・神経系疾患 > 運動器疾患 | 難易度：標準

「腱板損傷の臨床像を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

肩外転時の疼痛と筋力低下があり、特に棘上筋腱の障害が疑われる。最も関連する疾患はどれか。

ア．膝関節の靱帯損傷である。

イ．足関節底屈機構の損傷である。

ウ．正中神経絞扼障害である。

エ．棘上筋は腱板を構成し、損傷では外転時痛や筋力低下などがみられる。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「前十字靱帯損傷」を検討するための内容であり、今回の正答「腱板損傷」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「アキレス腱断裂」を検討するための内容であり、今回の正答「腱板損傷」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「手根管症候群」を検討するための内容であり、今回の正答「腱板損傷」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「腱板損傷」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「腱板損傷」が正答である。判断根拠は、棘上筋は腱板を構成し、損傷では外転時痛や筋力低下などがみられる。棘上筋は腱板を構成し、損傷では外転時痛や筋力低下などがみられる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0069

2-3 運動器・神経系疾患 > 運動器疾患 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
乳児期から股関節の形成異常や不安定性を生じる疾患はどれか。

- ア．发育性股関節形成不全は寛骨臼・大腿骨頭の发育と股関節安定性の異常を含む。
- イ．頸椎の加齢性変化である。
- ウ．手関節部での正中神経絞扼である。
- エ．大血管疾患である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「发育性股関節形成不全」が正答となる根拠を直接示している。
イ：誤り。この説明は「変形性頸椎症」を検討するための内容であり、今回の正答「发育性股関節形成不全」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：誤り。この説明は「手根管症候群」を検討するための内容であり、今回の正答「发育性股関節形成不全」を支持する中心的根拠ではない。
エ：誤り。この説明は「大動脈解離」を検討するための内容であり、今回の正答「发育性股関節形成不全」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「发育性股関節形成不全」が正答である。判断根拠は、发育性股関節形成不全は寛骨臼・大腿骨頭の发育と股関節安定性の異常を含む。发育性股関節形成不全は寛骨臼・大腿骨頭の发育と股関節安定性の異常を含む。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0070

2-3 運動器・神経系疾患 > 運動器疾患 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】構築性側弯症の特徴として最も適切なものはどれか。

- ア．側弯症は冠状面の弯曲を含む。
- イ．構築性側弯では側方弯曲だけでなく椎体回旋を伴う三次元変形がみられる。
- ウ．特発性など様々な原因があり、急性骨折ではない。
- エ．側弯症は脊柱変形である。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「脊柱が前後方向にしか変形しない」を検討するための内容であり、今回の正答「脊柱の側方弯曲に椎体回旋を伴う」を支持する中心的根拠ではない。
イ：正しい。この説明は「脊柱の側方弯曲に椎体回旋を伴う」が正答となる根拠を直接示している。
ウ：誤り。この説明は「必ず急性骨折だけが原因となる」を検討するための内容であり、今回の正答「脊柱の側方弯曲に椎体回旋を伴う」を支持する中心的根拠ではない。
エ：誤り。この説明は「下肢の末梢神経麻痺だけを指す」を検討するための内容であり、今回の正答「脊柱の側方弯曲に椎体回旋を伴う」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「脊柱の側方弯曲に椎体回旋を伴う」が正答である。判断根拠は、構築性側弯では側方弯曲だけでなく椎体回旋を伴う三次元変形がみられる。構築性側弯では側方弯曲だけでなく椎体回旋を伴う三次元変形がみられる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0071

2-3 運動器・神経系疾患 > 運動器疾患 | 難易度：応用

「腰椎椎間板ヘルニアの特徴を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

腰痛に加えて臀部から下肢へ放散する痛みがあり、SLRテストで症状が再現される。最も考えやすいのはどれか。

ア．肩の疼痛・拘縮を主体とする。

イ．顎関節周囲の症状が主体である。

ウ．椎間板突出が腰仙部神経根を刺激すると坐骨神経痛様の放散痛とSLR陽性がみられ得る。

エ．眼疾患で下肢放散痛を説明しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「肩関節周囲炎」を検討するための内容であり、今回の正答「腰椎椎間板ヘルニア」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「顎関節症」を検討するための内容であり、今回の正答「腰椎椎間板ヘルニア」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「腰椎椎間板ヘルニア」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「緑内障」を検討するための内容であり、今回の正答「腰椎椎間板ヘルニア」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「腰椎椎間板ヘルニア」が正答である。判断根拠は、椎間板突出が腰仙部神経根を刺激すると坐骨神経痛様の放散痛とSLR陽性がみられ得る。椎間板突出が腰仙部神経根を刺激すると坐骨神経痛様の放散痛とSLR陽性がみられ得る。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0072

2-3 運動器・神経系疾患 > 運動器疾患 | 難易度：応用

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

歩行すると下肢痛やしびれが増強し、前かがみで休むと軽快する高齢者で最も考えやすいのはどれか。

ア．肩関節外傷であり間欠跛行を説明しない。

イ．顔面神経麻痺である。

ウ．消化器疾患で神経性間欠跛行とは異なる。

エ．神経性間欠跛行は腰部脊柱管狭窄症の代表症状で、腰椎屈曲で軽快しやすい。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「急性肩関節脱臼」を検討するための内容であり、今回の正答「腰部脊柱管狭窄症」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「Bell麻痺」を検討するための内容であり、今回の正答「腰部脊柱管狭窄症」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「急性胃炎」を検討するための内容であり、今回の正答「腰部脊柱管狭窄症」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「腰部脊柱管狭窄症」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「腰部脊柱管狭窄症」が正答である。判断根拠は、神経性間欠跛行は腰部脊柱管狭窄症の代表症状で、腰椎屈曲で軽快しやすい。神経性間欠跛行は腰部脊柱管狭窄症の代表症状で、腰椎屈曲で軽快しやすい。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0073

2-3 運動器・神経系疾患 > 神経系疾患 | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】突然、右上下肢の脱力と構音障害が出現した。まず疑うべき疾患はどれか。

ア．脳梗塞など脳卒中は突然の局所神経症状で発症することが多く、緊急評価が必要である。

イ．膝の慢性疼痛・機能障害が主体で突然の片麻痺を説明しない。

ウ．肩関節の疼痛・拘縮が主体である。

エ．局所神経脱落症状の原因として典型的ではない。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「脳梗塞」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「変形性膝関節症」を検討するための内容であり、今回の正答「脳梗塞」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「肩関節周囲炎」を検討するための内容であり、今回の正答「脳梗塞」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「慢性胃炎」を検討するための内容であり、今回の正答「脳梗塞」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「脳梗塞」が正答である。判断根拠は、脳梗塞など脳卒中は突然の局所神経症状で発症することが多く、緊急評価が必要である。脳梗塞など脳卒中は突然の局所神経症状で発症することが多く、緊急評価が必要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0074

2-3 運動器・神経系疾患 > 神経系疾患 | 難易度：標準

「くも膜下出血の警告症状を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

「突然、今まで経験したことのない激しい頭痛」が出現した場合、特に疑うべき疾患はどれか。

ア．一般に締め付けられるような頭痛で、突然の最強頭痛は典型的でない。

イ．くも膜下出血は突然発症する非常に強い頭痛を呈することがあり、緊急評価が必要である。

ウ．股関節疾患で急激な激しい頭痛を説明しない。

エ．腱の炎症で頭痛の原因ではない。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「緊張型頭痛」を検討するための内容であり、今回の正答「くも膜下出血」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「くも膜下出血」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「変形性股関節症」を検討するための内容であり、今回の正答「くも膜下出血」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「腱鞘炎」を検討するための内容であり、今回の正答「くも膜下出血」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「くも膜下出血」が正答である。判断根拠は、くも膜下出血は突然発症する非常に強い頭痛を呈することがあり、緊急評価が必要である。くも膜下出血は突然発症する非常に強い頭痛を呈することがあり、緊急評価が必要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0075

2-3 運動器・神経系疾患 > 神経系疾患 | 難易度：基礎

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
Parkinson病に特徴的な組合せはどれか。

- ア．Parkinson病の代表的組合せではない。
- イ．全く異なる臓器系の症候である。
- ウ．Parkinson病では動作緩慢を中心に筋強剛、安静時振戦、姿勢保持障害などがみられる。
- エ．Parkinson病を特徴づける組合せではない。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「弛緩性麻痺・感覚脱失・失語のみ」を検討するための内容であり、今回の正答「動作緩慢・筋強剛・安静時振戦」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「発熱・血尿・黄疸」を検討するための内容であり、今回の正答「動作緩慢・筋強剛・安静時振戦」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：正しい。この説明は「動作緩慢・筋強剛・安静時振戦」が正答となる根拠を直接示している。
エ：誤り。この説明は「関節腫脹・皮疹・下血のみ」を検討するための内容であり、今回の正答「動作緩慢・筋強剛・安静時振戦」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「動作緩慢・筋強剛・安静時振戦」が正答である。判断根拠は、Parkinson病では動作緩慢を中心に筋強剛、安静時振戦、姿勢保持障害などがみられる。Parkinson病では動作緩慢を中心に筋強剛、安静時振戦、姿勢保持障害などがみられる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0076

2-3 運動器・神経系疾患 > 神経系疾患 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】Alzheimer病で初期からみられやすいのはどれか。

- ア．末梢性顔面神経麻痺などでみられる所見である。
- イ．TIAなどを考える症候である。
- ウ．変形性膝関節症などの症状である。
- エ．Alzheimer病では近時記憶障害が初期から目立つことが多く、徐々に認知機能障害が進行する。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「急性の片側顔面麻痺だけ」を検討するための内容であり、今回の正答「新しい出来事を覚えにくい記憶障害」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「数分で完全回復する片麻痺のみ」を検討するための内容であり、今回の正答「新しい出来事を覚えにくい記憶障害」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：誤り。この説明は「運動時だけの膝痛」を検討するための内容であり、今回の正答「新しい出来事を覚えにくい記憶障害」を支持する中心的根拠ではない。
エ：正しい。この説明は「新しい出来事を覚えにくい記憶障害」が正答となる根拠を直接示している。
総合解説：元の論点では「新しい出来事を覚えにくい記憶障害」が正答である。判断根拠は、Alzheimer病では近時記憶障害が初期から目立つことが多く、徐々に認知機能障害が進行する。Alzheimer病では近時記憶障害が初期から目立つことが多く、徐々に認知機能障害が進行する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0077

2-3 運動器・神経系疾患 > 神経系疾患 | 難易度：標準

「重症筋無力症の病態を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

夕方に眼瞼下垂や複視が悪化し、休息で軽快する傾向がある。最も考えやすいのはどれか。

- ア．神経筋接合部の自己免疫性障害により易疲労性・日内変動を伴う筋力低下を呈する。
- イ．安静時振戦・筋強剛・動作緩慢などが主体である。
- ウ．通常は突然の局所神経症状を呈し、休息で反復軽快する眼瞼下垂が典型ではない。
- エ．関節軟骨の変性疾患である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「重症筋無力症」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「Parkinson病」を検討するための内容であり、今回の正答「重症筋無力症」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「脳出血」を検討するための内容であり、今回の正答「重症筋無力症」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「変形性関節症」を検討するための内容であり、今回の正答「重症筋無力症」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「重症筋無力症」が正答である。判断根拠は、神経筋接合部の自己免疫性障害により易疲労性・日内変動を伴う筋力低下を呈する。神経筋接合部の自己免疫性障害により易疲労性・日内変動を伴う筋力低下を呈する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0078

2-3 運動器・神経系疾患 > 神経系疾患 | 難易度：応用

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

上位運動ニューロン徴候と下位運動ニューロン徴候が併存し、感覚障害が目立たない疾患はどれか。

- ア．中枢神経の脱髄疾患で、感覚・視覚など多様な症状を呈し得る。
- イ．ALSは上位・下位運動ニューロンが進行性に障害され、通常は感覚系が比較的保たれる。
- ウ．正中神経の局所絞扼障害である。
- エ．顔面神経の末梢性単神経麻痺である。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「多発性硬化症」を検討するための内容であり、今回の正答「筋萎縮性側索硬化症（ALS）」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「筋萎縮性側索硬化症（ALS）」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「手根管症候群」を検討するための内容であり、今回の正答「筋萎縮性側索硬化症（ALS）」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「Bell麻痺」を検討するための内容であり、今回の正答「筋萎縮性側索硬化症（ALS）」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「筋萎縮性側索硬化症（ALS）」が正答である。判断根拠は、ALSは上位・下位運動ニューロンが進行性に障害され、通常は感覚系が比較的保たれる。ALSは上位・下位運動ニューロンが進行性に障害され、通常は感覚系が比較的保たれる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0079

2-3 運動器・神経系疾患 > 神経系疾患 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】多発性硬化症の主な病変はどれか。

ア．絞扼性末梢神経障害の機序である。

イ．変形性関節症の病態である。

ウ．多発性硬化症は脳・脊髄・視神経など中枢神経系に多発する炎症性脱髄病変を特徴とする。

エ．骨壊死疾患の病態である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「末梢神経だけの圧迫」を検討するための内容であり、今回の正答「中枢神経系の脱髄」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「関節軟骨だけの変性」を検討するための内容であり、今回の正答「中枢神経系の脱髄」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「中枢神経系の脱髄」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「骨端部だけの壊死」を検討するための内容であり、今回の正答「中枢神経系の脱髄」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「中枢神経系の脱髄」が正答である。判断根拠は、多発性硬化症は脳・脊髄・視神経など中枢神経系に多発する炎症性脱髄病変を特徴とする。多発性硬化症は脳・脊髄・視神経など中枢神経系に多発する炎症性脱髄病変を特徴とする。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0080

2-3 運動器・神経系疾患 > 神経系疾患 | 難易度：標準

「Guillain-Barré症候群の特徴を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

感染症の後に両下肢から上行する筋力低下と腱反射低下が出現した。最も考えやすいのはどれか。

ア．慢性進行性の運動症状が主体で、先行感染後の急性上行性麻痺は典型ではない。

イ．反復性頭痛疾患で上行性麻痺を説明しない。

ウ．肩関節の疼痛・拘縮を主体とする。

エ．Guillain-Barré症候群は先行感染後に急性の免疫性多発ニューロパチーを生じ、上行性筋力低下や腱反射低下を呈し得る。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「Parkinson病」を検討するための内容であり、今回の正答「Guillain-Barré症候群」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「片頭痛」を検討するための内容であり、今回の正答「Guillain-Barré症候群」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「肩関節周囲炎」を検討するための内容であり、今回の正答「Guillain-Barré症候群」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「Guillain-Barré症候群」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「Guillain-Barré症候群」が正答である。判断根拠は、Guillain-Barré症候群は先行感染後に急性の免疫性多発ニューロパチーを生じ、上行性筋力低下や腱反射低下を呈し得る。Guillain-Barré症候群は先行感染後に急性の免疫性多発ニューロパチーを生じ、上行性筋力低下や腱反射低下を呈し得る。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0081

2-3 運動器・神経系疾患 > 神経系疾患 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
Bell麻痺など末梢性顔面神経麻痺で障害されやすいのはどれか。

- ア．末梢性顔面神経麻痺では前額部を含む同側表情筋が障害される。
- イ．顔面神経麻痺の主要所見ではない。
- ウ．嗅覚は嗅神経の機能である。
- エ．顔面神経の支配とは一致しない。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「額のしわ寄せを含む同側顔面全体の運動」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「対側下肢だけの筋力」を検討するための内容であり、今回の正答「額のしわ寄せを含む同側顔面全体の運動」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「嗅覚だけ」を検討するための内容であり、今回の正答「額のしわ寄せを含む同側顔面全体の運動」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「両側上肢の深部感覚だけ」を検討するための内容であり、今回の正答「額のしわ寄せを含む同側顔面全体の運動」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「額のしわ寄せを含む同側顔面全体の運動」が正答である。判断根拠は、末梢性顔面神経麻痺では前額部を含む同側表情筋が障害される。末梢性顔面神経麻痺では前額部を含む同側表情筋が障害される。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0082

2-3 運動器・神経系疾患 > 神経系疾患 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】母指・示指・中指を中心としたしびれと母指球筋力低下がある。障害される神経はどれか。

- ア．尺骨神経障害では小指・環指尺側のしびれや骨間筋障害などがみられる。
- イ．手根管症候群は手根管内で正中神経が圧迫され、橈側3本半の感覚症状や母指球筋障害を生じる。
- ウ．橈骨神経障害では手関節背屈障害などが代表的である。
- エ．腋窩神経は三角筋などを支配する。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「尺骨神経」を検討するための内容であり、今回の正答「正中神経」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「正中神経」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「橈骨神経」を検討するための内容であり、今回の正答「正中神経」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「腋窩神経」を検討するための内容であり、今回の正答「正中神経」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「正中神経」が正答である。判断根拠は、手根管症候群は手根管内で正中神経が圧迫され、橈側3本半の感覚症状や母指球筋障害を生じる。手根管症候群は手根管内で正中神経が圧迫され、橈側3本半の感覚症状や母指球筋障害を生じる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0083

2-3 運動器・神経系疾患 > 神経系疾患 | 難易度：標準

「総腓骨神経麻痺の症状を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なのはどれか。

総腓骨神経麻痺で生じやすいのはどれか。

ア．猿手は正中神経麻痺などでみられる。

イ．総腓骨神経支配とは無関係である。

ウ．総腓骨神経障害では足関節背屈が低下し、下垂足・鶏歩などを呈することがある。

エ．長胸神経障害などでみられる。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「猿手」を検討するための内容であり、今回の正答「下垂足」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「下顎の開口不能だけ」を検討するための内容であり、今回の正答「下垂足」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「下垂足」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「肩甲骨翼状化のみ」を検討するための内容であり、今回の正答「下垂足」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「下垂足」が正答である。判断根拠は、総腓骨神経障害では足関節背屈が低下し、下垂足・鶏歩などを呈することがある。総腓骨神経障害では足関節背屈が低下し、下垂足・鶏歩などを呈することがある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0084

2-3 運動器・神経系疾患 > 神経系疾患 | 難易度：応用

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

洗顔や会話などの軽い刺激で、顔面に数秒程度の電撃様激痛が反復する。最も考えやすいのはどれか。

ア．通常は頭部の圧迫・締め付け感が主体で、顔面の短い電撃痛とは異なる。

イ．肩関節の疼痛・拘縮を呈する。

ウ．下肢の神経性間欠跛行などが主体である。

エ．三叉神経痛は三叉神経領域に発作性・電撃様の強い痛みが誘発されることが特徴である。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「緊張型頭痛」を検討するための内容であり、今回の正答「三叉神経痛」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「肩関節周囲炎」を検討するための内容であり、今回の正答「三叉神経痛」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「腰部脊柱管狭窄症」を検討するための内容であり、今回の正答「三叉神経痛」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「三叉神経痛」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「三叉神経痛」が正答である。判断根拠は、三叉神経痛は三叉神経領域に発作性・電撃様の強い痛みが誘発されることが特徴である。三叉神経痛は三叉神経領域に発作性・電撃様の強い痛みが誘発されることが特徴である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0085

2-3 運動器・神経系疾患 > 膠原病・リウマチ性疾患 | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】両手の中手指節関節や近位指節間関節に対称性の腫脹があり、朝のこわばりが長く続く。最も考えやすいのはどれか。

ア．RAは慢性全身性自己免疫疾患で、手指など末梢関節の対称性多関節炎と朝のこわばりが典型的である。

イ．荷重関節の変性が主体で、手指小関節の対称性炎症を典型としない。

ウ．急性単関節炎として第1中足趾節関節などに生じることが多い。

エ．末梢性顔面神経麻痺である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「関節リウマチ（RA）」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「変形性膝関節症」を検討するための内容であり、今回の正答「関節リウマチ（RA）」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「痛風」を検討するための内容であり、今回の正答「関節リウマチ（RA）」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「Bell麻痺」を検討するための内容であり、今回の正答「関節リウマチ（RA）」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「関節リウマチ（RA）」が正答である。判断根拠は、RAは慢性全身性自己免疫疾患で、手指など末梢関節の対称性多関節炎と朝のこわばりが典型的である。RAは慢性全身性自己免疫疾患で、手指など末梢関節の対称性多関節炎と朝のこわばりが典型的である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0086

2-3 運動器・神経系疾患 > 膠原病・リウマチ性疾患 | 難易度：標準

「SLEの全身性病態を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

若年女性で光線過敏、頬部紅斑、関節痛、腎障害を認める。最も考えやすいのはどれか。

ア．局所関節の変性疾患で、多臓器自己免疫病態を説明しない。

イ．SLEは自己抗体産生を伴う全身性自己免疫疾患で、皮膚・関節・腎等多臓器病変を生じ得る。

ウ．神経根症状を呈する脊椎疾患である。

エ．消化器疾患である。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「変形性関節症」を検討するための内容であり、今回の正答「全身性エリテマトーデス（SLE）」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「全身性エリテマトーデス（SLE）」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「腰椎椎間板ヘルニア」を検討するための内容であり、今回の正答「全身性エリテマトーデス（SLE）」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「急性胃炎」を検討するための内容であり、今回の正答「全身性エリテマトーデス（SLE）」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「全身性エリテマトーデス（SLE）」が正答である。判断根拠は、SLEは自己抗体産生を伴う全身性自己免疫疾患で、皮膚・関節・腎等多臓器病変を生じ得る。SLEは自己抗体産生を伴う全身性自己免疫疾患で、皮膚・関節・腎等多臓器病変を生じ得る。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0087

2-3 運動器・神経系疾患 > 膠原病・リウマチ性疾患 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
Raynaud現象に加えて手指から始まる皮膚硬化を認める。最も考えやすいのはどれか。

- ア．易疲労性筋力低下が中心で皮膚硬化は典型ではない。
- イ．尿酸結晶による急性関節炎が中心である。
- ウ．全身性硬化症では血管障害、自己免疫、線維化を背景にRaynaud現象や皮膚硬化がみられる。
- エ．正中神経絞扼症候群である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「重症筋無力症」を検討するための内容であり、今回の正答「全身性硬化症（強皮症）」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「痛風」を検討するための内容であり、今回の正答「全身性硬化症（強皮症）」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「全身性硬化症（強皮症）」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「手根管症候群」を検討するための内容であり、今回の正答「全身性硬化症（強皮症）」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「全身性硬化症（強皮症）」が正答である。判断根拠は、全身性硬化症では血管障害、自己免疫、線維化を背景にRaynaud現象や皮膚硬化がみられる。全身性硬化症では血管障害、自己免疫、線維化を背景にRaynaud現象や皮膚硬化がみられる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0088

2-3 運動器・神経系疾患 > 膠原病・リウマチ性疾患 | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】眼の乾燥感と口腔乾燥を主症状とする自己免疫疾患はどれか。

- ア．動作緩慢・筋強剛などを主徴とする神経変性疾患である。
- イ．小児の大腿骨頭壊死である。
- ウ．大血管の急性疾患である。
- エ．Sj ö gren症候群では涙腺・唾液腺など外分泌腺が障害され、ドライアイ・ドライマウスを生じる。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「Parkinson病」を検討するための内容であり、今回の正答「Sj ö gren症候群」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「Perthes病」を検討するための内容であり、今回の正答「Sj ö gren症候群」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「大動脈解離」を検討するための内容であり、今回の正答「Sj ö gren症候群」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「Sj ö gren症候群」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「Sj ö gren症候群」が正答である。判断根拠は、Sj ö gren症候群では涙腺・唾液腺など外分泌腺が障害され、ドライアイ・ドライマウスを生じる。Sj ö gren症候群では涙腺・唾液腺など外分泌腺が障害され、ドライアイ・ドライマウスを生じる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0089 2-3 運動器・神経系疾患 > 膠原病・リウマチ性疾患 | 難易度：標準

「多発性筋炎・皮膚筋炎の特徴を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なのはどれか。

階段昇降や椅子からの立ち上がりが困難となる対称性近位筋力低下を認める。皮疹もある場合、最も考えやすいのはどれか。

ア．皮膚筋炎は炎症性筋疾患で、近位筋優位の筋力低下に特徴的皮疹を伴う。
イ．手指の正中神経領域のしびれが主体で、全身性近位筋力低下を説明しない。
ウ．顔面の発作性疼痛を呈する。
エ．膝の変性疾患で、対称性近位筋力低下の原因ではない。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。この説明は「皮膚筋炎」が正答となる根拠を直接示している。
イ：誤り。この説明は「手根管症候群」を検討するための内容であり、今回の正答「皮膚筋炎」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：誤り。この説明は「三叉神経痛」を検討するための内容であり、今回の正答「皮膚筋炎」を支持する中心的根拠ではない。
エ：誤り。この説明は「変形性膝関節症」を検討するための内容であり、今回の正答「皮膚筋炎」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「皮膚筋炎」が正答である。判断根拠は、皮膚筋炎は炎症性筋疾患で、近位筋優位の筋力低下に特徴的皮疹を伴う。皮膚筋炎は炎症性筋疾患で、近位筋優位の筋力低下に特徴的皮疹を伴う。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0090 2-3 運動器・神経系疾患 > 膠原病・リウマチ性疾患 | 難易度：応用

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

反復する口腔内アフタ、外陰部潰瘍、眼炎症を認める。最も考えやすいのはどれか。

ア．主に乾燥症状が特徴である。
イ．Behçet病では反復性口腔アフタ、外陰部潰瘍、眼病変、皮膚病変などを呈する。
ウ．関節軟骨変性を中心とする疾患である。
エ．末梢性顔面神経麻痺である。

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。この説明は「Sjögren症候群」を検討するための内容であり、今回の正答「Behçet病」を支持する中心的根拠ではない。
イ：正しい。この説明は「Behçet病」が正答となる根拠を直接示している。
ウ：誤り。この説明は「変形性関節症」を検討するための内容であり、今回の正答「Behçet病」を支持する中心的根拠ではない。
エ：誤り。この説明は「Bell麻痺」を検討するための内容であり、今回の正答「Behçet病」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「Behçet病」が正答である。判断根拠は、Behçet病では反復性口腔アフタ、外陰部潰瘍、眼病変、皮膚病変などを呈する。Behçet病では反復性口腔アフタ、外陰部潰瘍、眼病変、皮膚病変などを呈する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0091

2-3 運動器・神経系疾患 > 膠原病・リウマチ性疾患 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】全身の広範な慢性疼痛と疲労・睡眠障害があるが、関節破壊を示す炎症所見に乏しい。最も考えやすいのはどれか。

ア．RAでは滑膜炎による腫脹や関節破壊を生じ得る。

イ．感染による急性炎症性関節症で発熱・局所炎症などが問題となる。

ウ．線維筋痛症は広範な慢性疼痛、疲労、睡眠障害などを特徴とし、炎症性関節破壊を本態としない。

エ．結晶誘発性の急性関節炎で、広範な慢性疼痛のみを典型としない。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「関節リウマチ」を検討するための内容であり、今回の正答「線維筋痛症」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「化膿性関節炎」を検討するための内容であり、今回の正答「線維筋痛症」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「線維筋痛症」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「痛風発作」を検討するための内容であり、今回の正答「線維筋痛症」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「線維筋痛症」が正答である。判断根拠は、線維筋痛症は広範な慢性疼痛、疲労、睡眠障害などを特徴とし、炎症性関節破壊を本態としない。線維筋痛症は広範な慢性疼痛、疲労、睡眠障害などを特徴とし、炎症性関節破壊を本態としない。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0092

2-3 運動器・神経系疾患 > 膠原病・リウマチ性疾患 | 難易度：標準

「RAの検査所見を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

関節リウマチの診断補助で、リウマトイド因子より疾患特異度が高い抗体はどれか。

ア．原発性胆汁性胆管炎などに関連する自己抗体である。

イ．重症筋無力症に関連する。

ウ．自己免疫性甲状腺疾患でみられる。

エ．抗CCP抗体はRAに対する特異度が高く、診断や予後評価の補助に用いられる。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「抗ミトコンドリア抗体」を検討するための内容であり、今回の正答「抗CCP抗体」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「抗アセチルコリン受容体抗体」を検討するための内容であり、今回の正答「抗CCP抗体」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「抗サイログロブリン抗体」を検討するための内容であり、今回の正答「抗CCP抗体」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「抗CCP抗体」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「抗CCP抗体」が正答である。判断根拠は、抗CCP抗体はRAに対する特異度が高く、診断や予後評価の補助に用いられる。抗CCP抗体はRAに対する特異度が高く、診断や予後評価の補助に用いられる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0093

2-4 内科系疾患 > 循環器・血液疾患 | 難易度：基礎

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

脈拍が不規則で、心電図で明瞭なP波が確認できずRR間隔も不規則である。最も考えやすいのはどれか。

ア．心房細動では心房の興奮が無秩序となり、P波が消失しRR間隔が不規則になる。

イ．洞性徐脈では洞結節由来のP波が各QRSに先行し、基本的に規則的である。

ウ．完全房室ブロックではP波とQRSの房室解離がみられるが、心房細動のようなP波消失とは異なる。

エ．心室細動では有効な心拍出が失われ、脈拍を触知できない致死的不整脈である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「心房細動」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「洞性徐脈」を検討するための内容であり、今回の正答「心房細動」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「完全房室ブロック」を検討するための内容であり、今回の正答「心房細動」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「心室細動」を検討するための内容であり、今回の正答「心房細動」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「心房細動」が正答である。判断根拠は、心房細動では心房の興奮が無秩序となり、P波が消失しRR間隔が不規則になる。心房細動では心房の興奮が無秩序となり、P波が消失しRR間隔が不規則になる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0094

2-4 内科系疾患 > 循環器・血液疾患 | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】心疾患のある患者に、起坐呼吸と両側肺野の湿性ラ音が見られる。最も考えやすい病態はどれか。

ア．右心不全では末梢浮腫や頸静脈怒張など体静脈うっ血が目立つ。

イ．左心不全では肺うっ血により呼吸困難、起坐呼吸、湿性ラ音などを生じやすい。

ウ．深部静脈血栓症は主に片側下肢の腫脹や疼痛を呈し、肺うっ血そのものは説明しない。

エ．閉塞性動脈硬化症は下肢虚血による間欠性跛行などが中心である。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「右心不全のみ」を検討するための内容であり、今回の正答「左心不全」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「左心不全」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「深部静脈血栓症」を検討するための内容であり、今回の正答「左心不全」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「閉塞性動脈硬化症」を検討するための内容であり、今回の正答「左心不全」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「左心不全」が正答である。判断根拠は、左心不全では肺うっ血により呼吸困難、起坐呼吸、湿性ラ音などを生じやすい。左心不全では肺うっ血により呼吸困難、起坐呼吸、湿性ラ音などを生じやすい。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0095

2-4 内科系疾患 > 循環器・血液疾患 | 難易度：基礎

「急性心筋梗塞を疑う症候と初期対応を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

安静にしても20分以上続く胸部圧迫感、冷汗、悪心を認める。最も優先すべき対応はどれか。

ア．心筋虚血が疑われる状況で施術を継続するのは不適切で、診断・治療を遅らせる危険がある。

イ．急性心筋梗塞の可能性があるため、単なる経過観察を優先すべきではない。

ウ．持続する胸痛に冷汗や悪心を伴う場合は急性冠症候群を疑い、施術を行わず緊急評価につなげる。

エ．急性冠症候群が疑われる患者に運動負荷を行うのは危険である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「胸部を強く揉捏して症状軽減を待つ」を検討するための内容であり、今回の正答「急性冠症候群を疑い、速やかに救急要請・医療機関受診につなげる」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「水分を摂らせて1時間経過観察する」を検討するための内容であり、今回の正答「急性冠症候群を疑い、速やかに救急要請・医療機関受診につなげる」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「急性冠症候群を疑い、速やかに救急要請・医療機関受診につなげる」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「運動負荷を行って症状の再現性を確認する」を検討するための内容であり、今回の正答「急性冠症候群を疑い、速やかに救急要請・医療機関受診につなげる」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「急性冠症候群を疑い、速やかに救急要請・医療機関受診につなげる」が正答である。判断根拠は、持続する胸痛に冷汗や悪心を伴う場合は急性冠症候群を疑い、施術を行わず緊急評価につなげる。持続する胸痛に冷汗や悪心を伴う場合は急性冠症候群を疑い、施術を行わず緊急評価につなげる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0096

2-4 内科系疾患 > 循環器・血液疾患 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

長時間の臥床後、片側下肢に急な腫脹と疼痛が出現した。最も注意すべき疾患はどれか。

ア．変形性膝関節症は荷重時の膝痛や可動域制限が中心で、急激な片側下肢全体の腫脹は典型的でない。

イ．足底腱膜炎は足底、とくに踵部の荷重時痛が中心である。

ウ．頭頸部の症状であり、片側下肢の急性腫脹を説明しない。

エ．長期臥床などは静脈うっ滞を生じ、片側下肢の腫脹・疼痛を伴うDVTのリスクとなる。血栓が肺塞栓症を起こすこともある。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「変形性膝関節症」を検討するための内容であり、今回の正答「深部静脈血栓症」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「足底腱膜炎」を検討するための内容であり、今回の正答「深部静脈血栓症」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「筋緊張性頭痛」を検討するための内容であり、今回の正答「深部静脈血栓症」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「深部静脈血栓症」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「深部静脈血栓症」が正答である。判断根拠は、長期臥床などは静脈うっ滞を生じ、片側下肢の腫脹・疼痛を伴うDVTのリスクとなる。血栓が肺塞栓症を起こすこともある。長期臥床などは静脈うっ滞を生じ、片側下肢の腫脹・疼痛を伴うDVTのリスクとなる。血栓が肺塞栓症を起こすこともある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0097

2-4 内科系疾患 > 循環器・血液疾患 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】高齢者で、労作時の息切れ、胸痛、失神を繰り返す。聴診で収縮期駆出性雑音を認める。最も考えやすいのはどれか。

ア．重症大動脈弁狭窄症では労作時呼吸困難、狭心痛、失神が重要な症状となり、収縮期駆出性雑音を呈する。

イ．僧帽弁狭窄症では拡張期雑音が典型であり、本例の所見と合いにくい。

ウ．心房中隔欠損症では固定性Ⅱ音分裂などが知られ、典型像が異なる。

エ．下肢静脈瘤は表在静脈の拡張であり、労作時失神や心雑音を説明しない。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「大動脈弁狭窄症」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「僧帽弁狭窄症」を検討するための内容であり、今回の正答「大動脈弁狭窄症」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「心房中隔欠損症」を検討するための内容であり、今回の正答「大動脈弁狭窄症」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「下肢静脈瘤」を検討するための内容であり、今回の正答「大動脈弁狭窄症」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「大動脈弁狭窄症」が正答である。判断根拠は、重症大動脈弁狭窄症では労作時呼吸困難、狭心痛、失神が重要な症状となり、収縮期駆出性雑音を呈する。重症大動脈弁狭窄症では労作時呼吸困難、狭心痛、失神が重要な症状となり、収縮期駆出性雑音を呈する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0098

2-4 内科系疾患 > 循環器・血液疾患 | 難易度：標準

「鉄欠乏性貧血の検査所見を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

小球性低色素性貧血を呈し、血清フェリチンが低値である。最も考えやすいのはどれか。

ア．ビタミンB12や葉酸関連の異常では大球性貧血が典型である。

イ．鉄欠乏性貧血では貯蔵鉄を反映するフェリチンが低下し、小球性低色素性貧血となる。

ウ．骨髓造血低下による汎血球減少が問題となり、鉄欠乏に特有の低フェリチンとは異なる。

エ．赤血球破壊亢進により間接ビリルビン上昇などを伴うことがある。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「巨赤芽球形貧血」を検討するための内容であり、今回の正答「鉄欠乏性貧血」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「鉄欠乏性貧血」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「再生不良性貧血」を検討するための内容であり、今回の正答「鉄欠乏性貧血」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「溶血性貧血」を検討するための内容であり、今回の正答「鉄欠乏性貧血」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「鉄欠乏性貧血」が正答である。判断根拠は、鉄欠乏性貧血では貯蔵鉄を反映するフェリチンが低下し、小球性低色素性貧血となる。鉄欠乏性貧血では貯蔵鉄を反映するフェリチンが低下し、小球性低色素性貧血となる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0099

2-4 内科系疾患 > 循環器・血液疾患 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
大球性貧血に加えて手足のしびれなど神経症状を伴う。欠乏が疑われる栄養素はどれか。
ア．鉄欠乏では一般に小球性低色素性貧血となる。
イ．欠乏では壊血病などが問題となるが、典型的な巨赤芽球性貧血の原因ではない。
ウ．ビタミンB12欠乏は巨赤芽球性貧血を起こし、末梢神経障害などの神経症状を伴うことがある。
エ．欠乏では凝固因子活性低下による出血傾向が問題となる。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「鉄」を検討するための内容であり、今回の正答「ビタミンB12」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「ビタミンC」を検討するための内容であり、今回の正答「ビタミンB12」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：正しい。この説明は「ビタミンB12」が正答となる根拠を直接示している。
エ：誤り。この説明は「ビタミンK」を検討するための内容であり、今回の正答「ビタミンB12」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「ビタミンB12」が正答である。判断根拠は、ビタミンB12欠乏は巨赤芽球性貧血を起こし、末梢神経障害などの神経症状を伴うことがある。ビタミンB12欠乏は巨赤芽球性貧血を起こし、末梢神経障害などの神経症状を伴うことがある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0100

2-4 内科系疾患 > 循環器・血液疾患 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】血小板数は正常で、PTは正常だがAPTTが延長している先天性出血性疾患として代表的なのはどれか。
ア．鉄欠乏性貧血は赤血球系の異常であり、典型的にAPTT延長を起こす疾患ではない。
イ．高血圧は凝固因子欠乏によるAPTT延長とは異なる病態である。
ウ．赤血球増加を主体とする骨髄増殖性疾患であり、血友病の検査所見とは異なる。
エ．血友病A・Bは内因系凝固因子の異常で、典型的にはAPTT延長を示す。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「鉄欠乏性貧血」を検討するための内容であり、今回の正答「血友病」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「本態性高血圧」を検討するための内容であり、今回の正答「血友病」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：誤り。この説明は「真性多血症」を検討するための内容であり、今回の正答「血友病」を支持する中心的根拠ではない。
エ：正しい。この説明は「血友病」が正答となる根拠を直接示している。
総合解説：元の論点では「血友病」が正答である。判断根拠は、血友病A・Bは内因系凝固因子の異常で、典型的にはAPTT延長を示す。血友病A・Bは内因系凝固因子の異常で、典型的にはAPTT延長を示す。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0101

2-4 内科系疾患 > 循環器・血液疾患 | 難易度：応用

「DICの病態を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

重症感染症の経過中に、全身性の微小血栓形成と出血傾向が同時にみられた。最も考えやすいのはどれか。

ア．DICでは凝固系が全身性に活性化され、微小血栓形成と凝固因子・血小板消費による出血が併存する。

イ．鉄欠乏性貧血は赤血球産生障害であり、全身性微小血栓と出血の併存を説明しない。

ウ．高血圧そのものは消費性凝固障害ではない。

エ．DICのような全身性凝固活性化を本態としない。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「播種性血管内凝固症候群（DIC）」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「鉄欠乏性貧血」を検討するための内容であり、今回の正答「播種性血管内凝固症候群（DIC）」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「本態性高血圧」を検討するための内容であり、今回の正答「播種性血管内凝固症候群（DIC）」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「単純性紫斑病」を検討するための内容であり、今回の正答「播種性血管内凝固症候群（DIC）」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「播種性血管内凝固症候群（DIC）」が正答である。判断根拠は、DICでは凝固系が全身性に活性化され、微小血栓形成と凝固因子・血小板消費による出血が併存する。DICでは凝固系が全身性に活性化され、微小血栓形成と凝固因子・血小板消費による出血が併存する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0102

2-4 内科系疾患 > 循環器・血液疾患 | 難易度：応用

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

高齢者で持続する骨痛があり、血液検査で単クローン性免疫グロブリン増加が指摘された。最も考えやすいのはどれか。

ア．鉄欠乏性貧血は単クローン性免疫グロブリン増加や骨病変を本態としない。

イ．多発性骨髄腫は形質細胞腫瘍で、単クローン性免疫グロブリン、骨病変、貧血、腎障害などを伴い得る。

ウ．血友病は凝固因子欠乏による出血性疾患である。

エ．単クローン性免疫グロブリン増加とは関連しない。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「鉄欠乏性貧血」を検討するための内容であり、今回の正答「多発性骨髄腫」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「多発性骨髄腫」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「血友病」を検討するための内容であり、今回の正答「多発性骨髄腫」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「本態性高血圧」を検討するための内容であり、今回の正答「多発性骨髄腫」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「多発性骨髄腫」が正答である。判断根拠は、多発性骨髄腫は形質細胞腫瘍で、単クローン性免疫グロブリン、骨病変、貧血、腎障害などを伴い得る。多発性骨髄腫は形質細胞腫瘍で、単クローン性免疫グロブリン、骨病変、貧血、腎障害などを伴い得る。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0103

2-4 内科系疾患 > 呼吸器・消化器疾患 | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】長期喫煙歴があり、慢性の咳・喀痰と労作時呼吸困難が徐々に進行している。最も考えやすいのはどれか。

ア．自然気胸は突然の胸痛・呼吸困難で発症することが多く、長年の慢性進行性症状とは異なる。

イ．急性喉頭炎では嚔声や咽喉頭症状が中心となる。

ウ．COPDは喫煙が重要な危険因子で、慢性の咳・喀痰と進行性の労作時呼吸困難を呈しやすい。

エ．肺水腫では急性の呼吸困難や湿性ラ音などが問題となる。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「自然気胸」を検討するための内容であり、今回の正答「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「急性喉頭炎」を検討するための内容であり、今回の正答「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「肺水腫」を検討するための内容であり、今回の正答「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」が正答である。判断根拠は、COPDは喫煙が重要な危険因子で、慢性の咳・喀痰と進行性の労作時呼吸困難を呈しやすい。COPDは喫煙が重要な危険因子で、慢性の咳・喀痰と進行性の労作時呼吸困難を呈しやすい。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0104

2-4 内科系疾患 > 呼吸器・消化器疾患 | 難易度：基礎

「気管支喘息の気流制限の特徴を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

気管支喘息の特徴として最も適切なものはどれか。

ア．不可逆性が中心という説明はCOPDに近く、喘息の変動性を表していない。

イ．これは気胸などと混同した説明である。

ウ．これは血胸の説明であり喘息ではない。

エ．喘息では喘鳴・咳・呼吸困難などが変動し、気流制限も可逆性を示すことがある。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「常に不可逆的な気道閉塞だけを示す」を検討するための内容であり、今回の正答「症状や気流制限が時間とともに変動し、可逆性を示すことがある」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「肺泡が突然虚脱することだけで起こる」を検討するための内容であり、今回の正答「症状や気流制限が時間とともに変動し、可逆性を示すことがある」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「胸膜腔への出血のみを本態とする」を検討するための内容であり、今回の正答「症状や気流制限が時間とともに変動し、可逆性を示すことがある」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「症状や気流制限が時間とともに変動し、可逆性を示すことがある」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「症状や気流制限が時間とともに変動し、可逆性を示すことがある」が正答である。判断根拠は、喘息では喘鳴・咳・呼吸困難などが変動し、気流制限も可逆性を示すことがある。喘息では喘鳴・咳・呼吸困難などが変動し、気流制限も可逆性を示すことがある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0105

2-4 内科系疾患 > 呼吸器・消化器疾患 | 難易度：基礎

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

発熱、湿性咳嗽、膿性痰があり、胸部画像で新たな肺浸潤影を認める。最も考えやすいのはどれか。

ア．感染に伴う発熱・咳・痰と肺浸潤影は肺炎を支持する。

イ．過換気症候群では呼吸性アルカローシスに伴うしびれやめまいなどがみられるが、肺浸潤影は典型でない。

ウ．頭位変換で誘発される短時間の回転性めまいが中心である。

エ．胸やけ・呑酸などが中心で、新規肺浸潤影を直接説明しない。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「肺炎」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「過換気症候群」を検討するための内容であり、今回の正答「肺炎」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「良性発作性頭位めまい症」を検討するための内容であり、今回の正答「肺炎」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「胃食道逆流症」を検討するための内容であり、今回の正答「肺炎」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「肺炎」が正答である。判断根拠は、感染に伴う発熱・咳・痰と肺浸潤影は肺炎を支持する。感染に伴う発熱・咳・痰と肺浸潤影は肺炎を支持する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0106

2-4 内科系疾患 > 呼吸器・消化器疾患 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】突然の片側胸痛と呼吸困難が出現し、患側の呼吸音が著しく減弱している。最も考えやすいのはどれか。

ア．消化器症状が中心で、片側呼吸音減弱を説明しない。

イ．気胸では突然の胸痛・呼吸困難を生じ、患側呼吸音が減弱することがある。緊張性気胸なら緊急対応が必要である。

ウ．息切れを生じることがあるが、突然の片側胸痛と片側呼吸音減弱は典型でない。

エ．膝の疼痛・機能障害が中心である。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「慢性胃炎」を検討するための内容であり、今回の正答「気胸」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「気胸」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「鉄欠乏性貧血」を検討するための内容であり、今回の正答「気胸」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「変形性膝関節症」を検討するための内容であり、今回の正答「気胸」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「気胸」が正答である。判断根拠は、気胸では突然の胸痛・呼吸困難を生じ、患側呼吸音が減弱することがある。緊張性気胸なら緊急対応が必要である。気胸では突然の胸痛・呼吸困難を生じ、患側呼吸音が減弱することがある。緊張性気胸なら緊急対応が必要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0107

2-4 内科系疾患 > 呼吸器・消化器疾患 | 難易度：標準

「胃食道逆流症の典型症状を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なのはどれか。

食後や臥位で増悪する胸やけと吞酸を繰り返す。最も考えやすいのはどれか。

ア．典型的には右下腹部痛などが問題となる。

イ．血便や下痢など大腸炎症状が中心である。

ウ．GERDでは胃内容の逆流により胸やけや吞酸が生じ、食後や臥位で悪化しやすい。

エ．右上腹部痛など胆道系症状が中心で、胸やけ・吞酸が主症状ではない。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「急性虫垂炎」を検討するための内容であり、今回の正答「胃食道逆流症（GERD）」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「潰瘍性大腸炎」を検討するための内容であり、今回の正答「胃食道逆流症（GERD）」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「胃食道逆流症（GERD）」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「胆石症」を検討するための内容であり、今回の正答「胃食道逆流症（GERD）」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「胃食道逆流症（GERD）」が正答である。判断根拠は、GERDでは胃内容の逆流により胸やけや吞酸が生じ、食後や臥位で悪化しやすい。GERDでは胃内容の逆流により胸やけや吞酸が生じ、食後や臥位で悪化しやすい。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0108

2-4 内科系疾患 > 呼吸器・消化器疾患 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

胃・十二指腸潰瘍と関連が深い組合せはどれか。

ア．花粉曝露はアレルギー性鼻炎などと関連するが、消化性潰瘍の主要因ではない。

イ．この組合せは消化性潰瘍の主要原因を示さない。

ウ．眼科的要因であり消化性潰瘍とは無関係である。

エ．H. pylori感染とNSAIDsは消化性潰瘍の主要な原因・危険因子である。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「花粉曝露と運動不足」を検討するための内容であり、今回の正答「Helicobacter pylori感染とNSAIDs使用」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「ビタミンC摂取と睡眠」を検討するための内容であり、今回の正答「Helicobacter pylori感染とNSAIDs使用」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「近視と加齢」を検討するための内容であり、今回の正答「Helicobacter pylori感染とNSAIDs使用」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「Helicobacter pylori感染とNSAIDs使用」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「Helicobacter pylori感染とNSAIDs使用」が正答である。判断根拠は、H. pylori感染とNSAIDsは消化性潰瘍の主要な原因・危険因子である。H. pylori感染とNSAIDsは消化性潰瘍の主要な原因・危険因子である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0109

2-4 内科系疾患 > 呼吸器・消化器疾患 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】潰瘍性大腸炎の特徴として最も適切なものはどれか。

ア．潰瘍性大腸炎は大腸に局限し、直腸から連続性に粘膜炎症が広がるのが典型である。

イ．これはCrohn病の特徴に近い。

ウ．潰瘍性大腸炎は大腸疾患である。

エ．これは胆石症の説明である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「直腸から連続性に大腸粘膜へ炎症が広がることがある」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「口腔から肛門まで非連続性に全層性病変をつくるのが典型である」を検討するための内容であり、今回の正答「直腸から連続性に大腸粘膜へ炎症が広がることがある」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「胃粘膜だけに病変が局限する」を検討するための内容であり、今回の正答「直腸から連続性に大腸粘膜へ炎症が広がることがある」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「胆嚢内の結石形成を本態とする」を検討するための内容であり、今回の正答「直腸から連続性に大腸粘膜へ炎症が広がることがある」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「直腸から連続性に大腸粘膜へ炎症が広がることがある」が正答である。判断根拠は、潰瘍性大腸炎は大腸に局限し、直腸から連続性に粘膜炎症が広がるのが典型である。潰瘍性大腸炎は大腸に局限し、直腸から連続性に粘膜炎症が広がるのが典型である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0110

2-4 内科系疾患 > 呼吸器・消化器疾患 | 難易度：標準

「Crohn病の特徴を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

Crohn病の特徴として最も適切なものはどれか。

ア．これは潰瘍性大腸炎の特徴に近い。

イ．Crohn病は口腔から肛門まで起こり得て、非連続性・全層性の炎症が特徴である。

ウ．Crohn病は炎症性腸疾患である。

エ．腎疾患の説明でありCrohn病ではない。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「病変は必ず直腸から連続して大腸粘膜だけに局限する」を検討するための内容であり、今回の正答「消化管に非連続性の病変を生じ、炎症が全層性に及ぶことがある」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「消化管に非連続性の病変を生じ、炎症が全層性に及ぶことがある」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「心筋に局限した自己免疫炎症である」を検討するための内容であり、今回の正答「消化管に非連続性の病変を生じ、炎症が全層性に及ぶことがある」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「腎糸球体だけを障害する疾患である」を検討するための内容であり、今回の正答「消化管に非連続性の病変を生じ、炎症が全層性に及ぶことがある」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「消化管に非連続性の病変を生じ、炎症が全層性に及ぶことがある」が正答である。判断根拠は、Crohn病は口腔から肛門まで起こり得て、非連続性・全層性の炎症が特徴である。Crohn病は口腔から肛門まで起こり得て、非連続性・全層性の炎症が特徴である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0111

2-4 内科系疾患 > 呼吸器・消化器疾患 | 難易度：応用

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
突然の強い上腹部痛が背部へ放散し、血清リパーゼが上昇している。最も考えやすいのはどれか。
ア．主に胸やけ・呑酸を呈し、著明な膵酵素上昇を本態としない。
イ．腹痛と便通異常を呈する機能性疾患で、膵酵素上昇を説明しない。
ウ．急性膵炎では強い上腹部痛が背部へ放散し、膵酵素上昇を伴うことがある。
エ．排便回数低下や硬便が中心である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「胃食道逆流症」を検討するための内容であり、今回の正答「急性膵炎」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「過敏性腸症候群」を検討するための内容であり、今回の正答「急性膵炎」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：正しい。この説明は「急性膵炎」が正答となる根拠を直接示している。
エ：誤り。この説明は「単純性便秘」を検討するための内容であり、今回の正答「急性膵炎」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「急性膵炎」が正答である。判断根拠は、急性膵炎では強い上腹部痛が背部へ放散し、膵酵素上昇を伴うことがある。急性膵炎では強い上腹部痛が背部へ放散し、膵酵素上昇を伴うことがある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0112

2-4 内科系疾患 > 呼吸器・消化器疾患 | 難易度：応用

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】肝硬変患者で門脈圧亢進が進行したときに生じやすいのはどれか。
ア．水晶体混濁であり、門脈圧亢進の代表的合併症ではない。
イ．正中神経の絞扼性神経障害である。
ウ．頭頸部筋緊張などと関連する頭痛で、門脈圧亢進の代表的合併症ではない。
エ．門脈圧亢進では側副血行路が発達し、食道・胃静脈瘤や腹水などを生じ得る。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「白内障」を検討するための内容であり、今回の正答「食道静脈瘤」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「手根管症候群」を検討するための内容であり、今回の正答「食道静脈瘤」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：誤り。この説明は「緊張型頭痛」を検討するための内容であり、今回の正答「食道静脈瘤」を支持する中心的根拠ではない。
エ：正しい。この説明は「食道静脈瘤」が正答となる根拠を直接示している。
総合解説：元の論点では「食道静脈瘤」が正答である。判断根拠は、門脈圧亢進では側副血行路が発達し、食道・胃静脈瘤や腹水などを生じ得る。門脈圧亢進では側副血行路が発達し、食道・胃静脈瘤や腹水などを生じ得る。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0113

2-4 内科系疾患 > 腎泌尿器・内分泌代謝疾患 | 難易度：基礎

「ネフローゼ症候群の主要所見を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

高度蛋白尿、低アルブミン血症、浮腫を認める病態はどれか。

ア．ネフローゼ症候群では糸球体から大量の蛋白が漏出し、高度蛋白尿・低アルブミン血症・浮腫などを呈する。

イ．疝痛や血尿が代表的で、高度蛋白尿・低アルブミン血症の組合せは典型でない。

ウ．頻尿・排尿痛など下部尿路症状が中心である。

エ．排尿困難や残尿感など下部尿路閉塞症状が中心である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「ネフローゼ症候群」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「尿路結石」を検討するための内容であり、今回の正答「ネフローゼ症候群」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「膀胱炎」を検討するための内容であり、今回の正答「ネフローゼ症候群」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「前立腺肥大症」を検討するための内容であり、今回の正答「ネフローゼ症候群」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「ネフローゼ症候群」が正答である。判断根拠は、ネフローゼ症候群では糸球体から大量の蛋白が漏出し、高度蛋白尿・低アルブミン血症・浮腫などを呈する。ネフローゼ症候群では糸球体から大量の蛋白が漏出し、高度蛋白尿・低アルブミン血症・浮腫などを呈する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0114

2-4 内科系疾患 > 腎泌尿器・内分泌代謝疾患 | 難易度：基礎

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

慢性腎臓病（CKD）の考え方として最も適切なものはどれか。

ア．CKDは慢性の腎障害であり、短時間で自然治癒するという定義ではない。

イ．CKDは腎障害や腎機能低下が慢性的に持続する病態を包括する概念である。

ウ．尿路結石はCKDとは別の疾患概念である。

エ．感染の有無はCKDの必須条件ではない。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「数分以内に必ず自然治癒する病態である」を検討するための内容であり、今回の正答「腎障害または腎機能低下が一定期間持続する慢性病態である」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「腎障害または腎機能低下が一定期間持続する慢性病態である」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「尿路結石だけを指す名称である」を検討するための内容であり、今回の正答「腎障害または腎機能低下が一定期間持続する慢性病態である」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「感染症が存在するときだけ診断される」を検討するための内容であり、今回の正答「腎障害または腎機能低下が一定期間持続する慢性病態である」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「腎障害または腎機能低下が一定期間持続する慢性病態である」が正答である。判断根拠は、CKDは腎障害や腎機能低下が慢性的に持続する病態を包括する概念である。CKDは腎障害や腎機能低下が慢性的に持続する病態を包括する概念である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0115

2-4 内科系疾患 > 腎泌尿器・内分泌代謝疾患 | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】発熱、悪寒、側腹部痛があり、肋骨脊柱角叩打痛を認める。最も考えやすいのはどれか。

ア．膀胱炎は排尿痛・頻尿などが中心で、高熱や側腹部叩打痛は典型でない。

イ．主に尿勢低下・排尿困難などを呈する。

ウ．腎盂腎炎では発熱・悪寒など全身症状に加え、側腹部痛や肋骨脊柱角叩打痛を伴いやすい。

エ．尿意切迫感を中心とする排尿機能障害で、発熱・側腹部痛を説明しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「単純性膀胱炎」を検討するための内容であり、今回の正答「急性腎盂腎炎」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「前立腺肥大症」を検討するための内容であり、今回の正答「急性腎盂腎炎」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「急性腎盂腎炎」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「過活動膀胱」を検討するための内容であり、今回の正答「急性腎盂腎炎」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「急性腎盂腎炎」が正答である。判断根拠は、腎盂腎炎では発熱・悪寒など全身症状に加え、側腹部痛や肋骨脊柱角叩打痛を伴いやすい。腎盂腎炎では発熱・悪寒など全身症状に加え、側腹部痛や肋骨脊柱角叩打痛を伴いやすい。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0116

2-4 内科系疾患 > 腎泌尿器・内分泌代謝疾患 | 難易度：標準

「尿路結石の典型症状を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

突然の激しい側腹部疼痛が鼠径部へ放散し、血尿を伴う。最も考えやすいのはどれか。

ア．蛋白尿・血尿などを呈するが、典型的な疼痛性側腹部痛とは異なる。

イ．多尿・口渇が主症状である。

ウ．寒がり、徐脈、便秘などがみられ、疼痛と血尿を説明しない。

エ．尿管結石などでは急激な疼痛が側腹部から下腹部・鼠径部へ放散し、血尿を伴いやすい。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「慢性糸球体腎炎」を検討するための内容であり、今回の正答「尿路結石」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「尿崩症」を検討するための内容であり、今回の正答「尿路結石」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「甲状腺機能低下症」を検討するための内容であり、今回の正答「尿路結石」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「尿路結石」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「尿路結石」が正答である。判断根拠は、尿管結石などでは急激な疼痛が側腹部から下腹部・鼠径部へ放散し、血尿を伴いやすい。尿管結石などでは急激な疼痛が側腹部から下腹部・鼠径部へ放散し、血尿を伴いやすい。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0117

2-4 内科系疾患 > 腎泌尿器・内分泌代謝疾患 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

糖尿病の代表的な細小血管合併症の組合せとして正しいのはどれか。

ア．糖尿病では網膜症、腎症、神経障害が代表的な慢性細小血管合併症である。

イ．呼吸器疾患の組合せであり、糖尿病特有の細小血管合併症ではない。

ウ．消化器疾患で、糖尿病の代表的細小血管合併症ではない。

エ．糖尿病と関連することがある所見を含んでも、細小血管合併症の基本三徴ではない。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「網膜症・腎症・神経障害」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「肺炎・気胸・胸膜炎」を検討するための内容であり、今回の正答「網膜症・腎症・神経障害」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「胃潰瘍・胆石・虫垂炎」を検討するための内容であり、今回の正答「網膜症・腎症・神経障害」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「白内障・外反母趾・扁桃炎」を検討するための内容であり、今回の正答「網膜症・腎症・神経障害」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「網膜症・腎症・神経障害」が正答である。判断根拠は、糖尿病では網膜症、腎症、神経障害が代表的な慢性細小血管合併症である。糖尿病では網膜症、腎症、神経障害が代表的な慢性細小血管合併症である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0118

2-4 内科系疾患 > 腎泌尿器・内分泌代謝疾患 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】糖尿病治療中の患者に突然、冷汗、手の震え、動悸、意識のぼんやりが出現した。最も疑うべき病態はどれか。

ア．倦怠感や消化器症状などを生じ得るが、治療中に急発した冷汗・振戦は低血糖をより示唆する。

イ．低血糖では交感神経症状として冷汗・振戦・動悸がみられ、進行すると意識障害など神経糖欠乏症状を生じる。

ウ．通常は急性の発作性症状を説明しない。

エ．多くは無症候で、急性症状としては痛風発作などが問題となる。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「高カルシウム血症」を検討するための内容であり、今回の正答「低血糖」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「低血糖」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「慢性甲状腺炎」を検討するための内容であり、今回の正答「低血糖」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「高尿酸血症」を検討するための内容であり、今回の正答「低血糖」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「低血糖」が正答である。判断根拠は、低血糖では交感神経症状として冷汗・振戦・動悸がみられ、進行すると意識障害など神経糖欠乏症状を生じる。低血糖では交感神経症状として冷汗・振戦・動悸がみられ、進行すると意識障害など神経糖欠乏症状を生じる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0119

2-4 内科系疾患 > 腎泌尿器・内分泌代謝疾患 | 難易度：標準

「甲状腺機能亢進症の症候を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なのはどれか。

体重減少、動悸、発汗増加、手指振戦がみられる。最も考えやすいのはどれか。

ア．寒がり、体重増加傾向、徐脈、便秘などがみられやすい。

イ．低カルシウム血症に伴うテタニーなどが問題となる。

ウ．甲状腺ホルモン作用過剰では代謝亢進により体重減少、頻脈、発汗、振戦などがみられる。

エ．多尿と口渇が中心である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「甲状腺機能低下症」を検討するための内容であり、今回の正答「甲状腺機能亢進症」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「副甲状腺機能低下症」を検討するための内容であり、今回の正答「甲状腺機能亢進症」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「甲状腺機能亢進症」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「尿崩症」を検討するための内容であり、今回の正答「甲状腺機能亢進症」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「甲状腺機能亢進症」が正答である。判断根拠は、甲状腺ホルモン作用過剰では代謝亢進により体重減少、頻脈、発汗、振戦などがみられる。甲状腺ホルモン作用過剰では代謝亢進により体重減少、頻脈、発汗、振戦などがみられる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0120

2-4 内科系疾患 > 腎泌尿器・内分泌代謝疾患 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

寒がり、徐脈、便秘、皮膚乾燥、全身倦怠感がみられる。最も考えやすいのはどれか。

ア．通常は頻脈、発汗増加、体重減少など代謝亢進症状を示す。

イ．発作性高血圧、頭痛、動悸、発汗などが典型である。

ウ．高血圧と低カリウム血症などが問題となる。

エ．甲状腺ホルモン不足では代謝が低下し、寒がり、徐脈、便秘、皮膚乾燥、倦怠感などを呈する。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「甲状腺機能亢進症」を検討するための内容であり、今回の正答「甲状腺機能低下症」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「褐色細胞腫」を検討するための内容であり、今回の正答「甲状腺機能低下症」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「原発性アルドステロン症」を検討するための内容であり、今回の正答「甲状腺機能低下症」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「甲状腺機能低下症」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「甲状腺機能低下症」が正答である。判断根拠は、甲状腺ホルモン不足では代謝が低下し、寒がり、徐脈、便秘、皮膚乾燥、倦怠感などを呈する。甲状腺ホルモン不足では代謝が低下し、寒がり、徐脈、便秘、皮膚乾燥、倦怠感などを呈する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0121

2-4 内科系疾患 > 腎泌尿器・内分泌代謝疾患 | 難易度：応用

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】中心性肥満、満月様顔貌、皮膚菲薄化、紫色皮膚線条がみられる。最も考えやすいのはどれか。

ア．慢性的なコルチゾール過剰では中心性肥満、満月様顔貌、皮膚菲薄化、紫色皮膚線条などを生じる。

イ．副腎皮質機能低下により体重減少、低血圧、色素沈着などがみられることがある。

ウ．抗利尿ホルモン関連異常により多尿・口渇が中心となる。

エ．寒がり・徐脈・便秘などが中心である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「クッシング症候群」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「アジソン病」を検討するための内容であり、今回の正答「クッシング症候群」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「尿崩症」を検討するための内容であり、今回の正答「クッシング症候群」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「甲状腺機能低下症」を検討するための内容であり、今回の正答「クッシング症候群」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「クッシング症候群」が正答である。判断根拠は、慢性的なコルチゾール過剰では中心性肥満、満月様顔貌、皮膚菲薄化、紫色皮膚線条などを生じる。慢性的なコルチゾール過剰では中心性肥満、満月様顔貌、皮膚菲薄化、紫色皮膚線条などを生じる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0122

2-4 内科系疾患 > 腎泌尿器・内分泌代謝疾患 | 難易度：応用

「原発性アルドステロン症の病態を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

治療抵抗性の高血圧があり、血清カリウム低値を認める。副腎由来の疾患として最も考えやすいのはどれか。

ア．副腎皮質機能低下で、低血圧や高カリウム血症を伴うことがある。

イ．アルドステロン過剰によりナトリウム貯留・高血圧とカリウム喪失を生じる。

ウ．多尿・口渇が中心で、高血圧と低カリウム血症の組合せを本態としない。

エ．インスリン過剰による低血糖が中心である。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「アジソン病」を検討するための内容であり、今回の正答「原発性アルドステロン症」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「原発性アルドステロン症」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「尿崩症」を検討するための内容であり、今回の正答「原発性アルドステロン症」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「インスリンノーマ」を検討するための内容であり、今回の正答「原発性アルドステロン症」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「原発性アルドステロン症」が正答である。判断根拠は、アルドステロン過剰によりナトリウム貯留・高血圧とカリウム喪失を生じる。アルドステロン過剰によりナトリウム貯留・高血圧とカリウム喪失を生じる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0123

2-5 その他の臨床各論 > 感染症・アレルギー・免疫疾患 | 難易度：基礎

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
数週間続く咳、微熱、寝汗、体重減少がみられる。感染症として最も考えやすいのはどれか。

- ア．突然の胸痛・呼吸困難が中心で、慢性の全身症状とは異なる。
- イ．くしゃみ・水様性鼻汁・鼻閉などが中心である。
- ウ．肺結核では遷延する咳、微熱、寝汗、体重減少などを呈することがある。
- エ．胸やけ・呑酸などが中心で、発熱や寝汗を通常説明しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「急性気胸」を検討するための内容であり、今回の正答「肺結核」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「花粉症」を検討するための内容であり、今回の正答「肺結核」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：正しい。この説明は「肺結核」が正答となる根拠を直接示している。
エ：誤り。この説明は「胃食道逆流症」を検討するための内容であり、今回の正答「肺結核」を支持する中心的根拠ではない。
総合解説：元の論点では「肺結核」が正答である。判断根拠は、肺結核では遷延する咳、微熱、寝汗、体重減少などを呈することがある。肺結核では遷延する咳、微熱、寝汗、体重減少などを呈することがある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0124

2-5 その他の臨床各論 > 感染症・アレルギー・免疫疾患 | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】高熱、強い頭痛、嘔吐に加えて項部硬直がみられる。最も疑うべき疾患はどれか。

- ア．筋緊張に伴う頭痛では通常、高熱や項部硬直はみられない。
- イ．頸部痛や神経症状を生じ得るが、感染徴候を伴う髄膜炎とは異なる。
- ウ．頭位で誘発されるめまいが中心である。
- エ．発熱・頭痛・項部硬直は髄膜炎として重要で、髄膜炎を疑った場合は速やかな医療評価が必要である。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「緊張型頭痛」を検討するための内容であり、今回の正答「髄膜炎」を支持する中心的根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「変形性頸椎症」を検討するための内容であり、今回の正答「髄膜炎」を支持する中心的根拠ではない。
ウ：誤り。この説明は「良性発作性頭位めまい症」を検討するための内容であり、今回の正答「髄膜炎」を支持する中心的根拠ではない。
エ：正しい。この説明は「髄膜炎」が正答となる根拠を直接示している。
総合解説：元の論点では「髄膜炎」が正答である。判断根拠は、発熱・頭痛・項部硬直は髄膜炎として重要で、髄膜炎を疑った場合は速やかな医療評価が必要である。発熱・頭痛・項部硬直は髄膜炎として重要で、髄膜炎を疑った場合は速やかな医療評価が必要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0125

2-5 その他の臨床各論 > 感染症・アレルギー・免疫疾患 | 難易度：基礎

「アナフィラキシーの緊急所見を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

食品摂取直後に全身じんま疹、喘鳴、血圧低下が急速に出現した。最も考えやすいのはどれか。

ア．アナフィラキシーは急速に進行する全身性アレルギー反応で、皮膚症状、呼吸障害、循環不全などを伴い得る。

イ．通常は接触部位の皮膚炎が中心で、急速な血圧低下や気道症状を典型としない。

ウ．皮膚症状だけの蕁麻疹では呼吸・循環障害を伴うアナフィラキシーとは区別する。

エ．関節軟骨の変性を主体とする疾患である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「アナフィラキシー」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「接触性皮膚炎」を検討するための内容であり、今回の正答「アナフィラキシー」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「慢性蕁麻疹のみ」を検討するための内容であり、今回の正答「アナフィラキシー」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「変形性関節症」を検討するための内容であり、今回の正答「アナフィラキシー」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「アナフィラキシー」が正答である。判断根拠は、アナフィラキシーは急速に進行する全身性アレルギー反応で、皮膚症状、呼吸障害、循環不全などを伴い得る。アナフィラキシーは急速に進行する全身性アレルギー反応で、皮膚症状、呼吸障害、循環不全などを伴い得る。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0126

2-5 その他の臨床各論 > 感染症・アレルギー・免疫疾患 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

季節性に、くしゃみ、水様性鼻汁、鼻閉、鼻のかゆみを繰り返す。最も考えやすいのはどれか。

ア．膿性鼻汁や顔面痛などが中心で、水様性鼻汁・くしゃみの反復とは異なる。

イ．アレルギー性鼻炎では発作性のくしゃみ、水様性鼻汁、鼻閉が代表的で、花粉などで季節性に生じることがある。

ウ．耳痛や耳症状が中心である。

エ．嘔声などが問題となるが、季節性の鼻アレルギー症状を説明しない。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「急性副鼻腔炎のみ」を検討するための内容であり、今回の正答「アレルギー性鼻炎」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「アレルギー性鼻炎」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「中耳炎」を検討するための内容であり、今回の正答「アレルギー性鼻炎」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「喉頭癌」を検討するための内容であり、今回の正答「アレルギー性鼻炎」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「アレルギー性鼻炎」が正答である。判断根拠は、アレルギー性鼻炎では発作性のくしゃみ、水様性鼻汁、鼻閉が代表的で、花粉などで季節性に生じることがある。アレルギー性鼻炎では発作性のくしゃみ、水様性鼻汁、鼻閉が代表的で、花粉などで季節性に生じることがある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0127

2-5 その他の臨床各論 > 感染症・アレルギー・免疫疾患 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】慢性的に増悪と軽快を繰り返す、強いそう痒を伴う湿疹性皮膚病変として代表的なのはどれか。

ア．水晶体の混濁による眼疾患である。

イ．胆道系疾患であり皮膚湿疹を本態としない。

ウ．アトピー性皮膚炎はそう痒を伴う湿疹が慢性的・反復性にみられる疾患である。

エ．血管疾患であり慢性湿疹を説明しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「白内障」を検討するための内容であり、今回の正答「アトピー性皮膚炎」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「胆石症」を検討するための内容であり、今回の正答「アトピー性皮膚炎」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「アトピー性皮膚炎」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「大動脈瘤」を検討するための内容であり、今回の正答「アトピー性皮膚炎」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「アトピー性皮膚炎」が正答である。判断根拠は、アトピー性皮膚炎はそう痒を伴う湿疹が慢性的・反復性にみられる疾患である。アトピー性皮膚炎はそう痒を伴う湿疹が慢性的・反復性にみられる疾患である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0128

2-5 その他の臨床各論 > 感染症・アレルギー・免疫疾患 | 難易度：標準

「AIDSで障害される免疫機能を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

HIV感染が進行してAIDSを発症したとき、特に減少が問題となる細胞はどれか。

ア．酸素運搬を担う細胞で、HIVの主要標的細胞ではない。

イ．止血に重要だが、AIDSの免疫不全の中心を説明する細胞ではない。

ウ．HIVによる免疫不全の主要標的ではない。

エ．HIVは主にCD4陽性T細胞などを標的とし、その減少により細胞性免疫が低下して日和見感染などが起こりやすくなる。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「赤血球」を検討するための内容であり、今回の正答「CD4陽性Tリンパ球」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「血小板」を検討するための内容であり、今回の正答「CD4陽性Tリンパ球」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「骨格筋細胞」を検討するための内容であり、今回の正答「CD4陽性Tリンパ球」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「CD4陽性Tリンパ球」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「CD4陽性Tリンパ球」が正答である。判断根拠は、HIVは主にCD4陽性T細胞などを標的とし、その減少により細胞性免疫が低下して日和見感染などが起こりやすくなる。HIVは主にCD4陽性T細胞などを標的とし、その減少により細胞性免疫が低下して日和見感染などが起こりやすくなる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0129

2-5 その他の臨床各論 > 感染症・アレルギー・免疫疾患 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
B型肝炎ウイルスの主な感染経路として適切なのはどれか。

- ア．HBVは血液や体液を介して感染し、母子感染や性行為、血液曝露などが重要である。
- イ．花粉はアレルギー性鼻炎の誘因となるが、HBVの感染経路ではない。
- ウ．HBVは蚊媒介感染症として扱われない。
- エ．紫外線は感染経路ではない。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「血液・体液を介した感染」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「花粉の吸入だけによる感染」を検討するための内容であり、今回の正答「血液・体液を介した感染」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「蚊の吸血のみを介する感染」を検討するための内容であり、今回の正答「血液・体液を介した感染」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「紫外線曝露による感染」を検討するための内容であり、今回の正答「血液・体液を介した感染」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「血液・体液を介した感染」が正答である。判断根拠は、HBVは血液や体液を介して感染し、母子感染や性行為、血液曝露などが重要である。HBVは血液や体液を介して感染し、母子感染や性行為、血液曝露などが重要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0130

2-5 その他の臨床各論 > 感染症・アレルギー・免疫疾患 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】日和見感染について正しいのはどれか。

- ア．日和見感染はむしろ免疫機能低下時に問題となる。
- イ．日和見感染は免疫低下など宿主防御が弱まった状況で起こりやすい。
- ウ．外傷は感染リスクとなるが、日和見感染の定義ではない。
- エ．これはアレルギー反応の説明であり感染ではない。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「健康な宿主にのみ起こる感染をいう」を検討するための内容であり、今回の正答「免疫機能が低下した宿主で、通常は病原性が低い微生物でも感染症を起こしやすくなる」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「免疫機能が低下した宿主で、通常は病原性が低い微生物でも感染症を起こしやすくなる」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「必ず外傷後にだけ起こる感染をいう」を検討するための内容であり、今回の正答「免疫機能が低下した宿主で、通常は病原性が低い微生物でも感染症を起こしやすくなる」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「アレルギーによる非感染性反応をいう」を検討するための内容であり、今回の正答「免疫機能が低下した宿主で、通常は病原性が低い微生物でも感染症を起こしやすくなる」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「免疫機能が低下した宿主で、通常は病原性が低い微生物でも感染症を起こしやすくなる」が正答である。判断根拠は、日和見感染は免疫低下など宿主防御が弱まった状況で起こりやすい。日和見感染は免疫低下など宿主防御が弱まった状況で起こりやすい。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0131

2-5 その他の臨床各論 > 感染症・アレルギー・免疫疾患 | 難易度：応用

「蕁麻疹の皮疹の特徴を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

短時間で出現・消退を繰り返す、境界明瞭な膨疹と強いかゆみを特徴とするのはどれか。

ア．水晶体混濁による視機能障害である。

イ．上腹部痛などを主徴とする。

ウ．蕁麻疹は一過性の膨疹とそう痒が特徴で、個々の皮疹は比較的短時間で消退する。

エ．関節軟骨変性を主体とする。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「白内障」を検討するための内容であり、今回の正答「蕁麻疹」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「急性膵炎」を検討するための内容であり、今回の正答「蕁麻疹」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「蕁麻疹」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「変形性関節症」を検討するための内容であり、今回の正答「蕁麻疹」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「蕁麻疹」が正答である。判断根拠は、蕁麻疹は一過性の膨疹とそう痒が特徴で、個々の皮疹は比較的短時間で消退する。蕁麻疹は一過性の膨疹とそう痒が特徴で、個々の皮疹は比較的短時間で消退する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0132

2-5 その他の臨床各論 > 感染症・アレルギー・免疫疾患 | 難易度：応用

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

特定食品を食べるたびに数分以内に口唇腫脹、全身じんま疹、喘鳴が出現する。最も考えやすいのはどれか。

ア．慢性の貧血症状が中心で、特定食品摂取直後の反復性全身症状を説明しない。

イ．上腹部症状を呈する機能性疾患で、全身蕁麻疹や喘鳴の即時反応とは異なる。

ウ．脊椎の変性疾患である。

エ．特定食品摂取後、短時間で皮膚・粘膜・呼吸器症状が再現する場合はIgE介在性の食物アレルギーを考える。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「鉄欠乏性貧血」を検討するための内容であり、今回の正答「即時型の食物アレルギー」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「機能性ディスペプシア」を検討するための内容であり、今回の正答「即時型の食物アレルギー」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「変形性脊椎症」を検討するための内容であり、今回の正答「即時型の食物アレルギー」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「即時型の食物アレルギー」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「即時型の食物アレルギー」が正答である。判断根拠は、特定食品摂取後、短時間で皮膚・粘膜・呼吸器症状が再現する場合はIgE介在性の食物アレルギーを考える。特定食品摂取後、短時間で皮膚・粘膜・呼吸器症状が再現する場合はIgE介在性の食物アレルギーを考える。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0133

2-5 その他の臨床各論 > 感覚器・皮膚・婦人・小児疾患 | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】緑内障で障害されることが本質的に問題となるのはどれか。

ア．緑内障は視神経障害とそれに対応する視野障害をきたす疾患である。

イ．鼓膜は聴覚系の構造であり緑内障の主病変ではない。

ウ．嗅覚受容に関与し、緑内障の病変部位ではない。

エ．味覚受容器であり緑内障とは無関係である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「視神経」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「鼓膜」を検討するための内容であり、今回の正答「視神経」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「嗅上皮」を検討するための内容であり、今回の正答「視神経」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「味蕾」を検討するための内容であり、今回の正答「視神経」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「視神経」が正答である。判断根拠は、緑内障は視神経障害とそれに対応する視野障害をきたす疾患である。緑内障は視神経障害とそれに対応する視野障害をきたす疾患である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0134

2-5 その他の臨床各論 > 感覚器・皮膚・婦人・小児疾患 | 難易度：基礎

「網膜剥離の警告症状を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

突然、光が走る感じと飛蚊症が増え、その後カーテンがかかったように視野が欠けてきた。最も疑うべき疾患はどれか。

ア．徐々に進む視力低下やかすみが多く、急なカーテン状視野欠損は典型でない。

イ．光視症、飛蚊症の急増、カーテン状の視野欠損は網膜剥離を疑う重要な症状で、早急な眼科評価が必要である。

ウ．乾燥感・異物感などが中心である。

エ．眼のかゆみや充血が中心である。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「白内障」を検討するための内容であり、今回の正答「網膜剥離」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「網膜剥離」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「ドライアイ」を検討するための内容であり、今回の正答「網膜剥離」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「アレルギー性結膜炎」を検討するための内容であり、今回の正答「網膜剥離」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「網膜剥離」が正答である。判断根拠は、光視症、飛蚊症の急増、カーテン状の視野欠損は網膜剥離を疑う重要な症状で、早急な眼科評価が必要である。光視症、飛蚊症の急増、カーテン状の視野欠損は網膜剥離を疑う重要な症状で、早急な眼科評価が必要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0135

2-5 その他の臨床各論 > 感覚器・皮膚・婦人・小児疾患 | 難易度：基礎

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
寝返りや起き上がりなど頭位変換で、数十秒程度の回転性めまいが誘発される。最も考えやすいのはどれか。

- ア．急な感音難聴を主徴とし、頭位で再現する短時間めまいのみが典型ではない。
- イ．耳痛・耳漏などが中心で、典型的な頭位誘発性めまいとは異なる。
- ウ．BPPVでは特定の頭位変換で短時間の回転性めまいが誘発される。
- エ．眼疾患であり頭位誘発性回転性めまいを説明しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「突発性難聴」を検討するための内容であり、今回の正答「良性発作性頭位めまい症（BPPV）」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「中耳炎」を検討するための内容であり、今回の正答「良性発作性頭位めまい症（BPPV）」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「良性発作性頭位めまい症（BPPV）」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「緑内障」を検討するための内容であり、今回の正答「良性発作性頭位めまい症（BPPV）」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「良性発作性頭位めまい症（BPPV）」が正答である。判断根拠は、BPPVでは特定の頭位変換で短時間の回転性めまいが誘発される。BPPVでは特定の頭位変換で短時間の回転性めまいが誘発される。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0136

2-5 その他の臨床各論 > 感覚器・皮膚・婦人・小児疾患 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】朝起きたら片耳の聴力が突然低下し、耳鳴りも伴っている。最も適切な対応はどれか。

- ア．施術で経過を見ると診断・治療が遅れる可能性がある。
- イ．診断目的の適切な方法ではなく、受診を遅らせるべきでない。
- ウ．急性聴力低下の評価として不適切である。
- エ．急性の片側感音難聴は突発性難聴などを疑い、早期の診断・治療につなげる必要がある。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「首周囲を強く揉んで数日様子を見る」を検討するための内容であり、今回の正答「突発性難聴を疑い、早期に耳鼻咽喉科受診を勧める」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「耳に水を入れて聴力を確認する」を検討するための内容であり、今回の正答「突発性難聴を疑い、早期に耳鼻咽喉科受診を勧める」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「運動負荷で症状が変わるか試す」を検討するための内容であり、今回の正答「突発性難聴を疑い、早期に耳鼻咽喉科受診を勧める」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「突発性難聴を疑い、早期に耳鼻咽喉科受診を勧める」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「突発性難聴を疑い、早期に耳鼻咽喉科受診を勧める」が正答である。判断根拠は、急性の片側感音難聴は突発性難聴などを疑い、早期の診断・治療につなげる必要がある。急性の片側感音難聴は突発性難聴などを疑い、早期の診断・治療につなげる必要がある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0137

2-5 その他の臨床各論 > 感覚器・皮膚・婦人・小児疾患 | 難易度：標準

「蜂巣炎の臨床像を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

下腿に境界がやや不明瞭な発赤、熱感、腫脹、圧痛が広がり、発熱もある。最も考えやすいのはどれか。

ア．蜂巣炎は皮膚・皮下組織の細菌感染で、発赤、熱感、腫脹、疼痛が広がり、発熱を伴うことがある。

イ．限局性脱毛を呈するが、熱感を伴う急性の発赤腫脹を本態としない。

ウ．眼疾患である。

エ．婦人科疾患であり下腿の感染性炎症を説明しない。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「蜂巣炎（蜂窩織炎）」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「円形脱毛症」を検討するための内容であり、今回の正答「蜂巣炎（蜂窩織炎）」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「白内障」を検討するための内容であり、今回の正答「蜂巣炎（蜂窩織炎）」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「子宮筋腫」を検討するための内容であり、今回の正答「蜂巣炎（蜂窩織炎）」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「蜂巣炎（蜂窩織炎）」が正答である。判断根拠は、蜂巣炎は皮膚・皮下組織の細菌感染で、発赤、熱感、腫脹、疼痛が広がり、発熱を伴うことがある。蜂巣炎は皮膚・皮下組織の細菌感染で、発赤、熱感、腫脹、疼痛が広がり、発熱を伴うことがある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0138

2-5 その他の臨床各論 > 感覚器・皮膚・婦人・小児疾患 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

子宮筋腫について正しいのはどれか。

ア．子宮筋腫の発生組織・良悪性とも誤っている。

イ．子宮筋腫は子宮平滑筋由来の良性腫瘍で、過多月経や圧迫症状などを生じることがある。

ウ．これは子宮内膜症の説明である。

エ．子宮筋腫は感染症ではない。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「卵巢上皮由来の悪性腫瘍だけを指す」を検討するための内容であり、今回の正答「子宮平滑筋由来の良性腫瘍である」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「子宮平滑筋由来の良性腫瘍である」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「子宮内膜が子宮外に存在する病態である」を検討するための内容であり、今回の正答「子宮平滑筋由来の良性腫瘍である」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「妊娠時にのみ起こる感染症である」を検討するための内容であり、今回の正答「子宮平滑筋由来の良性腫瘍である」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「子宮平滑筋由来の良性腫瘍である」が正答である。判断根拠は、子宮筋腫は子宮平滑筋由来の良性腫瘍で、過多月経や圧迫症状などを生じることがある。子宮筋腫は子宮平滑筋由来の良性腫瘍で、過多月経や圧迫症状などを生じることがある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0139

2-5 その他の臨床各論 > 感覚器・皮膚・婦人・小児疾患 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】月経に伴って増悪する強い骨盤痛があり、不妊も指摘されている。最も考えやすいのはどれか。

ア．過多月経や圧迫症状などを生じるが、月経に伴う強い骨盤痛と不妊の組合せは子宮内膜症をより示唆する。

イ．頻尿や排尿痛が中心である。

ウ．子宮内膜症では月経困難症・慢性骨盤痛を生じ、不妊と関連することがある。

エ．動悸・発汗・体重減少などが中心である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「子宮筋腫のみ」を検討するための内容であり、今回の正答「子宮内膜症」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「膀胱炎」を検討するための内容であり、今回の正答「子宮内膜症」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「子宮内膜症」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「甲状腺機能亢進症」を検討するための内容であり、今回の正答「子宮内膜症」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「子宮内膜症」が正答である。判断根拠は、子宮内膜症では月経困難症・慢性骨盤痛を生じ、不妊と関連することがある。子宮内膜症では月経困難症・慢性骨盤痛を生じ、不妊と関連することがある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0140

2-5 その他の臨床各論 > 感覚器・皮膚・婦人・小児疾患 | 難易度：応用

「脳性麻痺の基本概念を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

脳性麻痺について最も適切なものはどれか。

ア．発症時期・病変部位・進行性の説明が誤っている。

イ．脳性麻痺は中枢神経系の発達期病変に関連する。

ウ．疾患概念と無関係である。

エ．脳性麻痺は発達期の脳に生じた非進行性の病変・異常に由来する永続的な運動・姿勢障害である。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「成人期の脊髄変性だけで生じる進行性疾患である」を検討するための内容であり、今回の正答「発達期の脳の非進行性病変により運動・姿勢の障害をきたす」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「末梢神経の一時的圧迫だけを指す」を検討するための内容であり、今回の正答「発達期の脳の非進行性病変により運動・姿勢の障害をきたす」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「筋肉痛が3日続いた状態を指す」を検討するための内容であり、今回の正答「発達期の脳の非進行性病変により運動・姿勢の障害をきたす」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「発達期の脳の非進行性病変により運動・姿勢の障害をきたす」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「発達期の脳の非進行性病変により運動・姿勢の障害をきたす」が正答である。判断根拠は、脳性麻痺は発達期の脳に生じた非進行性の病変・異常に由来する永続的な運動・姿勢障害である。脳性麻痺は発達期の脳に生じた非進行性の病変・異常に由来する永続的な運動・姿勢障害である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0141

2-5 その他の臨床各論 > 感覚器・皮膚・婦人・小児疾患 | 難易度：応用

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

小児で、睡眠中の排尿が発達段階を過ぎても反復して続いている状態として最も適切なものはどれか。

ア．夜尿症は、排尿コントロールが期待される年齢以降も睡眠中の尿失禁が反復する状態である。

イ．睡眠中に突然の強い恐怖反応や叫びなどを示す睡眠関連症状で、排尿障害そのものではない。

ウ．急性の感音難聴である。

エ．上腹部痛などを主徴とする消化器疾患である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「夜尿症」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「夜驚症」を検討するための内容であり、今回の正答「夜尿症」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「突発性難聴」を検討するための内容であり、今回の正答「夜尿症」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「急性膵炎」を検討するための内容であり、今回の正答「夜尿症」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「夜尿症」が正答である。判断根拠は、夜尿症は、排尿コントロールが期待される年齢以降も睡眠中の尿失禁が反復する状態である。夜尿症は、排尿コントロールが期待される年齢以降も睡眠中の尿失禁が反復する状態である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0142

2-5 その他の臨床各論 > 精神・高齢者・腫瘍・その他 | 難易度：基礎

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】2週間以上、抑うつ気分と興味・喜びの著しい低下が続き、仕事や生活に支障が出ている。最も考えやすいのはどれか。

ア．頭位誘発性めまいが中心である。

イ．持続する抑うつ気分や興味・喜びの喪失は抑うつ症の中核症状で、機能障害を伴う場合は医学的評価が必要である。

ウ．甲状腺疾患でも精神症状を伴うが、記載された精神症候は抑うつ症を考える基本像である。

エ．腹痛を中心とする急性腹症である。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「良性発作性頭位めまい症」を検討するための内容であり、今回の正答「抑うつ症」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「抑うつ症」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「甲状腺機能亢進症のみ」を検討するための内容であり、今回の正答「抑うつ症」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「急性虫垂炎」を検討するための内容であり、今回の正答「抑うつ症」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「抑うつ症」が正答である。判断根拠は、持続する抑うつ気分や興味・喜びの喪失は抑うつ症の中核症状で、機能障害を伴う場合は医学的評価が必要である。持続する抑うつ気分や興味・喜びの喪失は抑うつ症の中核症状で、機能障害を伴う場合は医学的評価が必要である。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0143

2-5 その他の臨床各論 > 精神・高齢者・腫瘍・その他 | 難易度：基礎

「双極症の躁状態を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

睡眠時間が著しく短くても疲れず、気分が高揚し、多弁・活動性亢進が続いている。最も考えやすいのはどれか。

ア．抑うつ状態では意欲低下、興味喪失、抑うつ気分などが中心となる。

イ．急性発症で注意・意識の変動を特徴とし、持続的な躁状態とは異なる。

ウ．躁状態では高揚または易怒的気分、活動性亢進、睡眠欲求低下、多弁などがみられる。

エ．運動緩慢、筋強剛、振戦などが中心である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「抑うつ状態」を検討するための内容であり、今回の正答「躁状態」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「せん妄」を検討するための内容であり、今回の正答「躁状態」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「躁状態」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「パーキンソン病」を検討するための内容であり、今回の正答「躁状態」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「躁状態」が正答である。判断根拠は、躁状態では高揚または易怒的気分、活動性亢進、睡眠欲求低下、多弁などがみられる。躁状態では高揚または易怒的気分、活動性亢進、睡眠欲求低下、多弁などがみられる。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0144

2-5 その他の臨床各論 > 精神・高齢者・腫瘍・その他 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

入院中の高齢者が急に注意散漫となり、1日の中で意識の清明度が大きく変動する。最も考えやすいのはどれか。

ア．認知症は通常より緩徐に進行し、日内で大きく変動する急性注意障害はせん妄を疑う。

イ．対人場面での強い不安を特徴とし、急性の意識変動を説明しない。

ウ．頭痛疾患であり注意・意識変動の原因概念ではない。

エ．せん妄は急性発症し、注意障害と認知・意識レベルの変動を特徴とする。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「アルツハイマー病の慢性経過のみ」を検討するための内容であり、今回の正答「せん妄」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「社交不安症」を検討するための内容であり、今回の正答「せん妄」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「緊張型頭痛」を検討するための内容であり、今回の正答「せん妄」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「せん妄」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「せん妄」が正答である。判断根拠は、せん妄は急性発症し、注意障害と認知・意識レベルの変動を特徴とする。せん妄は急性発症し、注意障害と認知・意識レベルの変動を特徴とする。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0145

2-5 その他の臨床各論 > 精神・高齢者・腫瘍・その他 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。

【設問】明らかな危険がない状況で、突然強い恐怖、動悸、息苦しさ、発汗が出現し、短時間でピークに達する発作を反復している。最も考えやすいのはどれか。

- ア．パニック発作は突然の強い恐怖・不安と自律神経症状を伴い、短時間でピークに達する。
- イ．幻覚・妄想などを呈し得るが、反復する突然のパニック発作とは異なる。
- ウ．睡眠中の反復性尿失禁である。
- エ．関節軟骨の変性疾患である。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。この説明は「パニック症」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「統合失調症」を検討するための内容であり、今回の正答「パニック症」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「夜尿症」を検討するための内容であり、今回の正答「パニック症」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「変形性関節症」を検討するための内容であり、今回の正答「パニック症」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「パニック症」が正答である。判断根拠は、パニック発作は突然の強い恐怖・不安と自律神経症状を伴い、短時間でピークに達する。パニック発作は突然の強い恐怖・不安と自律神経症状を伴い、短時間でピークに達する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0146

2-5 その他の臨床各論 > 精神・高齢者・腫瘍・その他 | 難易度：標準

「フレイルの概念を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なものはどれか。

高齢者のフレイルについて最も適切なものはどれか。

- ア．フレイルは予備能低下・脆弱性の増大を指す。
- イ．フレイルは身体・精神心理・社会的側面を含み得る脆弱な状態で、適切な介入により改善可能性がある。
- ウ．感染症の名称ではない。
- エ．フレイルは健康と要介護状態の中間的な状態として捉えられ、可逆性があり得る。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「骨格筋量だけが増加した状態である」を検討するための内容であり、今回の正答「加齢に伴い生理的予備能が低下し、ストレスに対する脆弱性が増した状態である」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「加齢に伴い生理的予備能が低下し、ストレスに対する脆弱性が増した状態である」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「特定の感染症だけを指す」を検討するための内容であり、今回の正答「加齢に伴い生理的予備能が低下し、ストレスに対する脆弱性が増した状態である」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「不可逆的な寝たきり状態と同義である」を検討するための内容であり、今回の正答「加齢に伴い生理的予備能が低下し、ストレスに対する脆弱性が増した状態である」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「加齢に伴い生理的予備能が低下し、ストレスに対する脆弱性が増した状態である」が正答である。判断根拠は、フレイルは身体・精神心理・社会的側面を含み得る脆弱な状態で、適切な介入により改善可能性がある。フレイルは身体・精神心理・社会的側面を含み得る脆弱な状態で、適切な介入により改善可能性がある。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0147

2-5 その他の臨床各論 > 精神・高齢者・腫瘍・その他 | 難易度：標準

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。
サルコペニアの中心的な問題として最も適切なのはどれか。

- ア．眼科疾患の症状である。
- イ．気管支喘息の病態に近い。
- ウ．サルコペニアは加齢などに関連した骨格筋量と筋力・身体機能の低下を特徴とする。
- エ．胆道疾患の病態である。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「網膜剥離による視野欠損」を検討するための内容であり、今回の正答「骨格筋量や筋力・身体機能の低下」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「気管支の可逆性収縮」を検討するための内容であり、今回の正答「骨格筋量や筋力・身体機能の低下」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：正しい。この説明は「骨格筋量や筋力・身体機能の低下」が正答となる根拠を直接示している。

エ：誤り。この説明は「胆石による胆道閉塞」を検討するための内容であり、今回の正答「骨格筋量や筋力・身体機能の低下」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「骨格筋量や筋力・身体機能の低下」が正答である。判断根拠は、サルコペニアは加齢などに関連した骨格筋量と筋力・身体機能の低下を特徴とする。サルコペニアは加齢などに関連した骨格筋量と筋力・身体機能の低下を特徴とする。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0148

2-5 その他の臨床各論 > 精神・高齢者・腫瘍・その他 | 難易度：標準

次の設問に正しく答えるための根拠として、最も適切なものはどれか。
【設問】骨・関節・筋肉・神経など運動器の障害によって、立つ・歩くといった移動機能が低下した状態を表すのはどれか。

ア．急性全身性アレルギー反応である。

イ．高度蛋白尿と低アルブミン血症などを特徴とする腎疾患である。

ウ．反復するめまい、難聴、耳鳴りなどを呈する内耳疾患である。

エ．ロコモティブシンドロームは運動器障害により移動機能が低下し、要介護リスクが高まった状態を示す。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「アナフィラキシー」を検討するための内容であり、今回の正答「ロコモティブシンドローム」を支持する中心的根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「ネフローゼ症候群」を検討するための内容であり、今回の正答「ロコモティブシンドローム」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「メニエール病」を検討するための内容であり、今回の正答「ロコモティブシンドローム」を支持する中心的根拠ではない。

エ：正しい。この説明は「ロコモティブシンドローム」が正答となる根拠を直接示している。

総合解説：元の論点では「ロコモティブシンドローム」が正答である。判断根拠は、ロコモティブシンドロームは運動器障害により移動機能が低下し、要介護リスクが高まった状態を示す。ロコモティブシンドロームは運動器障害により移動機能が低下し、要介護リスクが高まった状態を示す。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0149 2-5 その他の臨床各論 > 精神・高齢者・腫瘍・その他 | 難易度：応用

「悪性腫瘍を疑う全身性警告所見を理解する」を確認する。次の問いの正答を支える説明として最も適切なのはどれか。

原因不明の体重減少と寝汗が続き、無痛性のリンパ節腫脹が徐々に増大している。対応として最も適切なのはどれか。

ア．原因不明の体重減少・寝汗・進行性無痛性リンパ節腫脹は悪性疾患を含む鑑別が必要で、
手術より医療評価を優先する。

イ．原因未確定の進行性リンパ節腫脹に強い手術を行うのは不適切である。

ウ．悪性腫瘍を含む重大疾患の診断を遅らせる可能性がある。

エ．悪性疾患の鑑別方法ではなく、医療機関での評価が必要である。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。この説明は「悪性リンパ腫などを鑑別するため医療機関での精査を勧める」が正答となる根拠を直接示している。

イ：誤り。この説明は「リンパ節を強く揉み続ける」を検討するための内容であり、今回の正答「悪性リンパ腫などを鑑別するため医療機関での精査を勧める」を支持する中心的根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「症状が消えるまで受診せず手術だけ続ける」を検討するための内容であり、今回の正答「悪性リンパ腫などを鑑別するため医療機関での精査を勧める」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「運動負荷でリンパ節が小さくなるか確認する」を検討するための内容であり、今回の正答「悪性リンパ腫などを鑑別するため医療機関での精査を勧める」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「悪性リンパ腫などを鑑別するため医療機関での精査を勧める」が正答である。判断根拠は、原因不明の体重減少・寝汗・進行性無痛性リンパ節腫脹は悪性疾患を含む鑑別が必要で、手術より医療評価を優先する。原因不明の体重減少・寝汗・進行性無痛性リンパ節腫脹は悪性疾患を含む鑑別が必要で、手術より医療評価を優先する。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22

0150 2-5 その他の臨床各論 > 精神・高齢者・腫瘍・その他 | 難易度：応用

次の問いについて、正答を判断する際の中心的な根拠はどれか。

悪性腫瘍の既往がある患者に、夜間にも強い新規の背部痛と進行する下肢筋力低下が出現した。最も適切なのはどれか。

ア．悪性腫瘍既往と進行性神経症状があるため、まず重大疾患を除外すべきである。

イ．悪性腫瘍既往、新規の持続性・夜間痛、進行する神経症状は脊椎転移や脊髄圧迫を含む重大病態のレッドフラッグである。

ウ．脊髄圧迫などでは早期診断が重要で、長期経過観察は不適切である。

エ．進行する神経脱落症状は医療評価を優先すべき所見である。

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。この説明は「通常の筋肉痛と判断して強圧手術を行う」を検討するための内容であり、今回の正答「脊椎転移や脊髄圧迫を疑い、早急な医療評価につなげる」を支持する中心的根拠ではない。

イ：正しい。この説明は「脊椎転移や脊髄圧迫を疑い、早急な医療評価につなげる」が正答となる根拠を直接示している。

ウ：誤り。この説明は「数週間ストレッチだけで経過観察する」を検討するための内容であり、今回の正答「脊椎転移や脊髄圧迫を疑い、早急な医療評価につなげる」を支持する中心的根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「筋力低下が進んでも手術を継続する」を検討するための内容であり、今回の正答「脊椎転移や脊髄圧迫を疑い、早急な医療評価につなげる」を支持する中心的根拠ではない。

総合解説：元の論点では「脊椎転移や脊髄圧迫を疑い、早急な医療評価につなげる」が正答である。判断根拠は、悪性腫瘍既往、新規の持続性・夜間痛、進行する神経症状は脊椎転移や脊髄圧迫を含む重大病態のレッドフラッグである。悪性腫瘍既往、新規の持続性・夜間痛、進行する神経症状は脊椎転移や脊髄圧迫を含む重大病態のレッドフラッグである。

国家試験出題基準2026年版 / 作成基準日 2026-08-22